

豊橋市生涯学習推進計画

改訂版

(2016—2020)

豊橋市教育委員会

目 次

第1章 計画の改訂にあたって

1	生涯学習の意義	3
2	計画改訂の経緯	4
3	計画の位置づけ	5
4	計画の期間	6

第2章 豊橋市生涯学習推進計画（2011－2015）の取組み状況

1	成果と課題	10
2	総 括	18

第3章 豊橋市生涯学習推進計画（2016－2020）の方向性

1	計画の基本的な考え方	21
2	施策の3本柱	22
3	計画の体系	24

第4章 生涯学習推進のための施策の3本柱

基本的な柱1 生涯学習機会の充実

(1)	一人ひとりの生涯にわたる主体的な学習への支援	29
(2)	社会の変化に対応した生涯学習の推進	33

基本的な柱2 地域における生涯学習活動への支援

- (1) 地域の教育活動の推進 36
- (2) 家庭の教育力の向上 40
- (3) 青少年教育活動の推進 43
- (4) 学校、家庭、地域の連携 46
- (5) 地域活動や団体への支援及び連携促進 48

基本的な柱3 図書館の充実

- (1) 快適で利用しやすい図書館環境整備 50
- (2) 多様化する市民ニーズへの対応 52
- (3) 新たな図書館利用者の開拓 53

第5章 計画の推進にあたって

- 1 推進体制 57
- 2 効果の検証 57
- 3 計画の指標・取組み目標（5年後） 58

資料編

- 1 市内の生涯学習関連施設 63
- 2 各種事業の実施状況 65
- 3 アンケート調査の結果、参考データ 68
- 4 豊橋市・愛知県・国、世界の生涯学習推進計画に関する動き… 85
- 5 主要用語解説 86
- 6 研究協議経過 88

※本文中「※」のマークをつけた用語は、「主要用語解説」として掲載しています。

第1章

計画の改訂にあたって

第1章 計画の改訂にあたって

1 生涯学習の意義

生涯学習とは、人生を豊かで充実したものにするため、文化・スポーツ・趣味などに興味を持ち、新しい知識や技術を自ら習得することや、身近な地域社会をよりよくするため、地域の特色に関心を寄せ、それを理解するための学習活動を、個人が生涯を通じて行っていくことです。

その活動は学校、家庭、地域を含めたあらゆる領域にわたって行われるものです。

そして、自ら学んだ成果をボランティア活動や地域の発展に活かすことは、自分を表現する喜びになるとともに、新しい自分の発見にもつながります。

人々が生涯のいつでも、どこでも、自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が社会において適切に評価される「生涯学習社会」※を築いていくことが大切です。



2 計画改訂の経緯

国際化、情報化、科学技術の急速な進展や、人口減少時代の到来など社会情勢が急激に変化している今日、人生の様々な段階における多様な目的を持った学びや、そのための環境づくりなど、生涯を通じた学習機会の提供や家庭・地域の教育力の向上などの「生涯学習社会」の実現に向けた取組みが求められています。

国においては、平成2年に、生涯学習の振興を目的とした「生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律」を制定し、平成18年12月に60年ぶりとなる教育基本法を改正、「生涯学習の理念」が新たに設けられました。

本市教育委員会においては、こうした国の動きを踏まえ、生涯学習に関する政策の方向性を明らかにし、その実現に向けた施策を総合的かつ計画的に推進するため、平成23年3月に「豊橋市生涯学習推進計画」を策定し、平成32年度を目標に事業を推進して5年が経過しました。

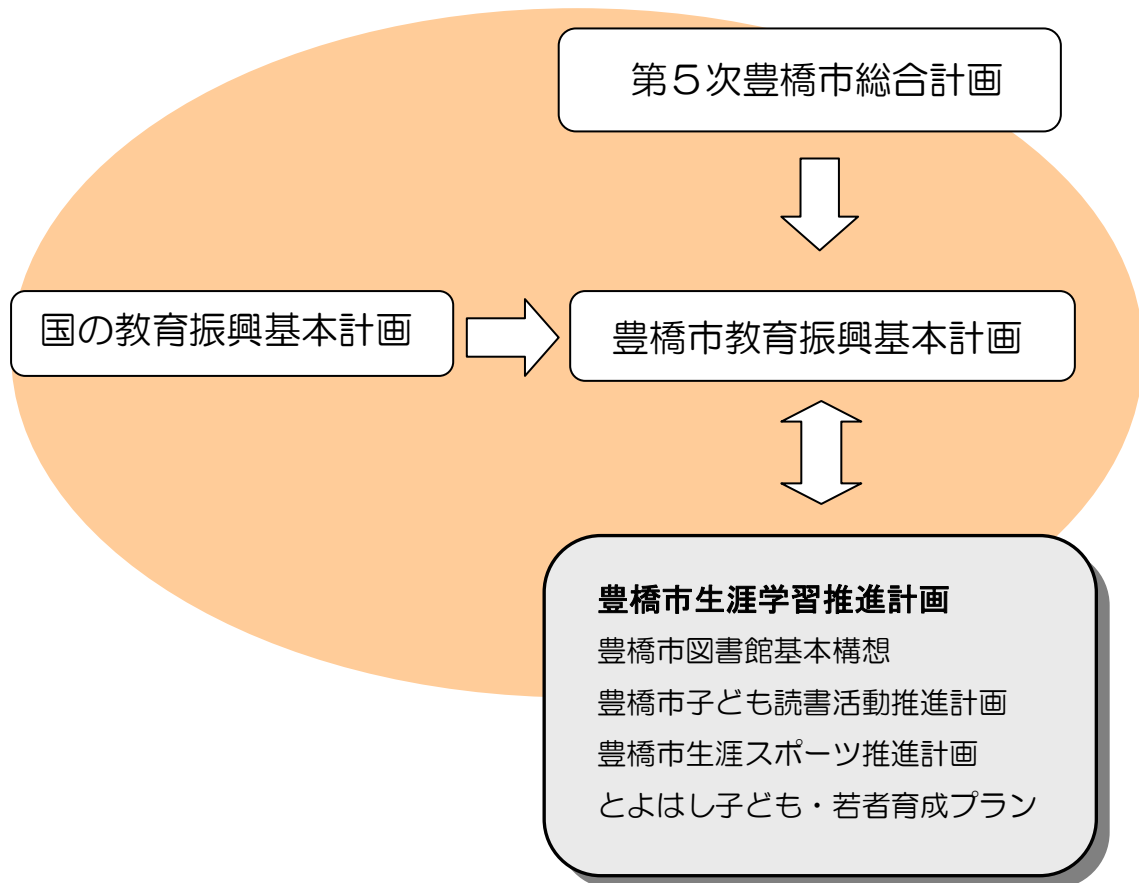
また、愛知県では、平成25年3月に「愛知県生涯学習推進計画」を策定、さらに国においては、同年6月に「第2期教育振興基本計画」が閣議決定されました。

こうした国、県の動きを踏まえ、本計画は、平成23年度から32年度までの10年間の計画期間のうち、その前期が平成27年度末に終了することに伴い、前期の評価・検証を行った上で中間見直しを行い、「豊橋市生涯学習推進計画 改訂版」として策定します。

3 計画の位置づけ

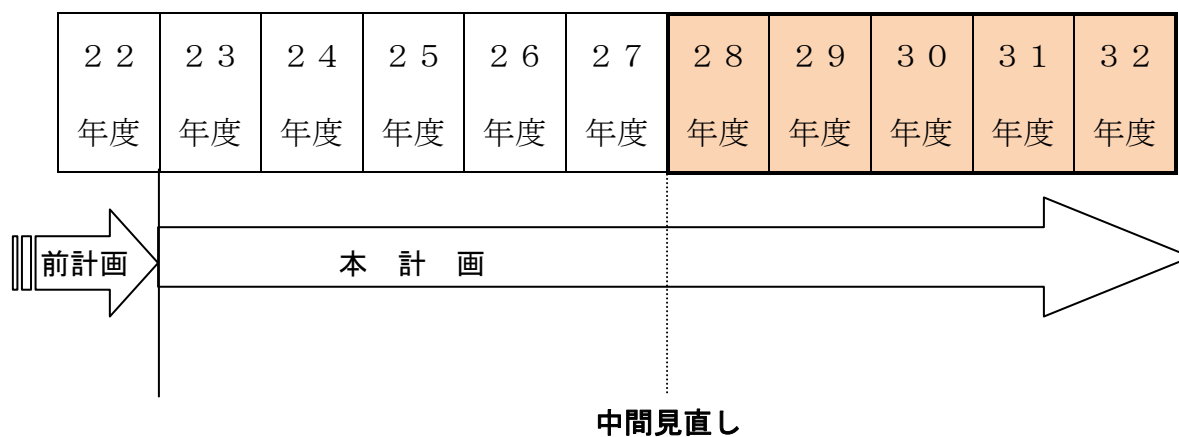
本計画は、「第5次豊橋市総合計画」の教育分野をより具体的にした「豊橋市教育振興基本計画」の個別部門における計画と位置づけ、関係機関等と連携を図りながら、生涯学習施策を推進していくものです。

【計画の位置づけ】



4 計画の期間

本計画は、平成23年度から平成32年度までの10年間とし、当該期間の後期開始にあたる平成28年度から平成32年度までの5年間は改訂版としての期間です。



第2章

豊橋市生涯学習推進計画（2011-2015）
の取組み状況

第2章 豊橋市生涯学習推進計画（2011－2015）の取組み状況

「豊橋市生涯学習推進計画」の前期5年間では、豊橋市基本構想のまちづくりの「基本理念」を生涯学習活動の面から実現していくことを目的として、以下の基本理念と施策の3本柱を定め、生涯学習社会の構築に向け取り組んできました。

<豊橋市生涯学習推進計画の基本理念>

だれでも、いつでも、どこでも、何でも、自発的意思によって学習でき、その成果を適切に生かすことのできる生涯学習社会の構築を図ります。

○施策の体系（施策の3本柱）

- 1 生涯学習活動の促進
- 2 家庭教育・地域教育の推進
- 3 生涯学習・社会教育施設、図書館の充実

以下、施策ごとに取組み状況を検証し、前期5年間の総括をします。

1 成果と課題

【分析】の表示

○・・・目標達成

●・・・目標未達成

基本的な柱 1 生涯学習活動の促進

施策の方向	(1) 一人ひとりの生涯にわたる主体的な学習への支援																												
成果	<ul style="list-style-type: none"> 各種講座を夜間の時間帯や土曜日に開催し、市民が参加しやすい環境を整えることができました。 大学や東三河の市町村と連携した講座を充実したことにより、多様化・専門化する市民ニーズに対応した様々な生涯学習講座を提供することができました。 生涯学習情報紙「glad!」をより多くの市民に手にとってもらえるよう、配布先の拡充を図り、生涯学習の普及・啓発を行いました。 																												
指標	<p>◇社会教育施設利用者数を 1,020,000 人にします。</p> <p style="text-align: right;">(単位：人)</p> <table border="1" data-bbox="379 913 1404 1034"> <thead> <tr> <th>基準値(H21)</th> <th>目標値</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27 見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,010,031</td> <td>1,020,000</td> <td>1,048,220</td> <td>1,042,875</td> <td>888,377</td> <td>882,951</td> <td>950,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>【指標の説明】 地区市民館の利用者数</p> <p>【分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●生活家庭館（平成 24 年度末）と前芝地区市民館の閉館（平成 25 年度末）及び南稜地区市民館建て替えに伴う休館（平成 25、26 年度）により、利用できる社会教育施設数が減ったことが要因として考えられます。 <p>◇生涯学習活動への延べ参加者数を増やします。</p> <p style="text-align: right;">(単位：人)</p> <table border="1" data-bbox="379 1451 1404 1572"> <thead> <tr> <th>基準値(H21)</th> <th>目標値</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27 見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>27,496</td> <td>—</td> <td>27,813</td> <td>25,100</td> <td>23,327</td> <td>23,202</td> <td>24,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>【指標の説明】 「市民大学トラム」の延べ参加者数</p> <p>【分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●より多くの市民に学習機会を提供するため、講座数を維持し、1 講座あたりの回数を見直したため、延べ参加者数が減少したことが要因として考えられます。 	基準値(H21)	目標値	H23	H24	H25	H26	H27 見込	1,010,031	1,020,000	1,048,220	1,042,875	888,377	882,951	950,000	基準値(H21)	目標値	H23	H24	H25	H26	H27 見込	27,496	—	27,813	25,100	23,327	23,202	24,000
基準値(H21)	目標値	H23	H24	H25	H26	H27 見込																							
1,010,031	1,020,000	1,048,220	1,042,875	888,377	882,951	950,000																							
基準値(H21)	目標値	H23	H24	H25	H26	H27 見込																							
27,496	—	27,813	25,100	23,327	23,202	24,000																							
課題	<ul style="list-style-type: none"> 大清水まなび交流館では、複合施設としての強みを活かして幅広い年代の生涯学習機会を確保するとともに、生涯学習活動への新たな参加者を増やしていく必要があります。 																												

施策の方向	(2) 社会の変化に対応した生涯学習の推進														
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災や環境問題などの現代的課題をテーマにした講座を提供したことにより、市民の生涯学習の幅を広げることができました。 ・ 「高齢者セミナー」を通して、高齢者の生きがいつくりとなる機会の提供とともに、高齢者の交流、仲間づくりを促進しました。 														
指標	<p>◇社会環境の変化によって生ずる現代的課題に対応した講座数を増やします。 (単位：講座数)</p> <table border="1" data-bbox="379 719 1406 842"> <thead> <tr> <th>基準値(H21)</th> <th>目標値</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27 見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>24</td> <td>—</td> <td>22</td> <td>25</td> <td>23</td> <td>25</td> <td>31</td> </tr> </tbody> </table> <p>【指標の説明】 「市民大学トラム」において現代的課題をテーマとした講座数</p> <p>【分析】</p> <p>○東日本大震災をきっかけに、地域コミュニティや地域防災に関する重要性が再認識され、これらに関する講座を増やし対応しました。</p>	基準値(H21)	目標値	H23	H24	H25	H26	H27 見込	24	—	22	25	23	25	31
基準値(H21)	目標値	H23	H24	H25	H26	H27 見込									
24	—	22	25	23	25	31									
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後は、現代的課題をテーマとした講座の受講を通して、学習者が自らの地域課題と向き合う意識の醸成を図る必要があります。そのためには、地域性や社会の動向に対応したテーマの講座を開催するとともに、その魅力を幅広く発信する必要があります。 														

基本的な柱2 家庭教育・地域教育の推進

施策の方向	(1) 家庭の教育力の向上														
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地区市民館での講座のほか、学校や企業と連携して講演会を実施したことにより、家庭教育に関する学習の機会を増やすことができ、家庭内における教育力の向上や、同年齢の子を持つ親の情報交換や交流の促進を図ることができました。 ・両親が協力して子育てができる父親参加型の講座を開催することで、家庭教育の向上を図ることができました。 														
指標	<p>◇多くの父母などに対して、子育てに関する家庭教育事業への参加者数を 7,500 人にします。</p> <p style="text-align: right;">(単位：人)</p> <table border="1" data-bbox="379 898 1406 1016"> <thead> <tr> <th>基準値(H21)</th> <th>目標値</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27 見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5,022</td> <td>7,500</td> <td>5,816</td> <td>4,918</td> <td>5,171</td> <td>6,573</td> <td>6,660</td> </tr> </tbody> </table> <p>【指標の説明】 家庭教育関係講座の参加者数</p> <p>【分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●思春期の子どもの保護者を対象とした子育て講座などにおいて、ライフスタイルの多様化に伴い、保護者のニーズに合わせた講座が開催できなかったことが要因として考えられます。 	基準値(H21)	目標値	H23	H24	H25	H26	H27 見込	5,022	7,500	5,816	4,918	5,171	6,573	6,660
基準値(H21)	目標値	H23	H24	H25	H26	H27 見込									
5,022	7,500	5,816	4,918	5,171	6,573	6,660									
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の教育力の向上のため、地域の豊かなつながりの中で、子育て支援活動と連携しながら、多様な家庭教育に関する学習機会の充実を図る必要があります。 														

施策の方向	(2) 学校、家庭、地域の連携
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域教育リーダー養成事業」において、地域の教育活動の指導的立場となる人材の育成、発掘の促進を行いました。 ・「生涯学習推進セミナー事業」において、地域における歴史・伝統・文化を学ぶための地域講座を開催支援しました。 ・豊橋市校区社会教育委員会連絡協議会による成人式、豊橋市小中学校PTA連絡協議会による家庭教育に関する研修会や情報交換など、社会教育関係団体活動を支援しました。

指 標	<p>◇社会教育関係団体の横の連携を図るため、各校区ごとにネットワーク化を図り、その数を増やします。（基準値：指数なし）</p> <p>【分析】</p> <p>○社会教育関係団体の横の連携を図る機会として、「地域教育リーダー養成事業」を開催し、その後、情報交換会を通して、意見交換・情報共有を図りました。</p>
課 題	<p>・地域の教育活動の指導的立場となる人材の育成、発掘をさらに進める必要があります。</p>

施策の方向	(3) 地域の資源や財産を活かした学習の推進														
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・「市民大学トラム」において、郷土の歴史、文化、自然をテーマにした講座を開催しました。 ・中心市街地で「市民大学トラム」を開催し、「まちなか」の魅力を再発見する機会を提供しました。 ・「生涯学習推進セミナー事業」において、郷土の歴史、自然など、各地域の資源をテーマとするとともに、地域の人材が講師となる講座を開催支援しました。 														
指 標	<p>◇市民の専門的で多様な学習ニーズに応えるとともに、郷土の歴史や文化、自然などを学ぶ講座や事業を実施します。</p> <p style="text-align: right;">(単位：講座数)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>基準値(H21)</th> <th>目標値</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27 見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11</td> <td>—</td> <td>9</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>8</td> <td>14</td> </tr> </tbody> </table> <p>【指標の説明】 「市民大学トラム」において、郷土の歴史や文化、自然をテーマとした講座数</p> <p>【分析】</p> <p>○地域の資源や財産に目を向け、地域を再発見できる学習機会を提供しました。</p>	基準値(H21)	目標値	H23	H24	H25	H26	H27 見込	11	—	9	13	13	8	14
基準値(H21)	目標値	H23	H24	H25	H26	H27 見込									
11	—	9	13	13	8	14									
課 題	<p>・地域の魅力を再発見できる学習機会の提供とともに、学んだ成果を地域の内外に発信していく支援を行う必要があります。</p>														

施策の方向	(4) 地域活動や団体への支援及び連携促進														
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域いきいき子育て促進事業」において、地域ぐるみで子どもを育てる環境づくりを進めました。 ・市民館等において講座参加者の自主グループ化を促し、市民館活動の活性化を図りました。 														
指標	<p>◇「地域いきいき子育て促進事業」の実施回数を増やします。</p> <p style="text-align: right;">(単位：回数)</p> <table border="1" data-bbox="379 719 1406 842"> <thead> <tr> <th>基準値(H21)</th> <th>目標値</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27 見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>897</td> <td>—</td> <td>850</td> <td>779</td> <td>687</td> <td>671</td> <td>686</td> </tr> </tbody> </table> <p>【指標の説明】 「地域いきいき子育て促進事業」の実施回数</p> <p>【分析】</p> <p>●講師となる人材の発掘、育成などの効果的な支援を図ることが不十分でした。</p>	基準値(H21)	目標値	H23	H24	H25	H26	H27 見込	897	—	850	779	687	671	686
基準値(H21)	目標値	H23	H24	H25	H26	H27 見込									
897	—	850	779	687	671	686									
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・市民自らが学んだ成果を発揮できる生涯学習活動を促進するとともに、地域において指導的立場となる人材の育成を進め、地域ぐるみで子どもを育てる仕組みづくりを推進する必要があります。 														

基本的な柱 3 生涯学習・社会教育施設、図書館の充実

施策の方向	(1) 生涯学習関連施設の整備
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・アイプラザ豊橋のリニューアルオープンに伴い、市民ニーズの高い料理・工作実習室や防音設備を施した多目的室などの生涯学習機能を整備したことにより、今まで以上に市民の生涯学習活動の推進を図ることができました。 ・市民一人ひとりに役立つ「知」の拠点と、地域が再発見できる交流の場「地」の拠点との役割を兼ね備えた生涯学習の拠点として、大清水まなび交流館を平成27年4月に開館させることができました。
指標	<p>◇利用者が安全で快適に利用できるよう、老朽化した施設の充実を進めていきます。(基準値：指数なし)</p> <p>【分析】</p> <p>○南稜地区市民館建て替えに伴う、大清水まなび交流館の整備など、老朽化した施設の一定の整備・充実を行うことができました。</p>
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育施設の老朽化が進む中、利用者が安全・快適に施設を利用できるよう計画的に環境整備を行う必要があります。

施策の方向	(2) 生涯学習関連施設の機能の充実														
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・地区市民館において、生涯学習サポートボランティアが、館長と協力して講座を開催するとともに、市民が継続的に学習できるよう、講座開催から自主グループ化へつなげる支援を行いました。 ・地域教育推進のため、校区市民館で「地域いきいき子育て促進事業」を主体的に取り組んでいる地域スタッフに対する支援を行いました。 ・学校と地域の間立つ地域教育ボランティアの支援を行いました。 														
指標	<p>◇生涯学習サポートボランティアのグループを増やします。</p> <p style="text-align: right;">(単位：グループ数)</p> <table border="1" data-bbox="379 1832 1406 1951"> <thead> <tr> <th>基準値(H21)</th> <th>目標値</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27 見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>—</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>【指標の説明】 生涯学習サポートボランティアのグループ数</p>	基準値(H21)	目標値	H23	H24	H25	H26	H27 見込	1	—	1	1	1	1	1
基準値(H21)	目標値	H23	H24	H25	H26	H27 見込									
1	—	1	1	1	1	1									

	<p>【分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ボランティアグループの数は増えていませんでしたが、所属するボランティアの人数は増え、生涯学習事業について支援が得られました。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域教育を推進していく上で、学校と地域を結ぶ拠点となる地区市民館での環境づくりを行う必要があります。

施策の方向	(3) 図書館の充実														
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館の利用促進を図るため、1人5冊までの貸出冊数を平成23年度に10冊に増やしたことにより、貸出冊数を増加させることができました。 ・ 図書館開館100周年を記念し、「市民と迎える100年」をテーマに様々な記念行事を実施するとともに、図書館の歴史を振り返り、その100年の足跡を残す記念誌を発行・販売したことで、市民とともに歩んだ図書館の歴史やその魅力を多くの市民にPRすることができました。 ・ 市民により身近な場所で図書館サービスを提供するため、アイプラザ豊橋のリニューアルに合わせて図書室を開設し、ネットワーク館（図書館システム設置施設）を拡大したことで、利用者数の増加を図ることができました。 ・ 複合施設として大清水図書館の整備を進め、市民館や窓口センターと連携し、地域の住民に充実した図書館サービスを提供できる環境を整えることができました。 ・ 平成26年度にICタグを導入し、図書に貸出・返却を迅速化するとともに、蔵書点検の効率化により開館日数を増やし、利用者サービスの向上を図ることができました。 														
指 標	<p>◇図書館の年間利用者数を増やします。 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H21)</th> <th>目標値</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>423,854</td> <td>—</td> <td>401,072</td> <td>394,113</td> <td>385,884</td> <td>367,915</td> <td>410,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>【指標の説明】 図書館の利用者数</p> <p>【分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 少子高齢化や高度情報化の急激な進展により、全国的にも図書館利用者が減少傾向にある中、個人の価値観やライフスタイルの多様化に伴い、市民ニーズや 	基準値(H21)	目標値	H23	H24	H25	H26	H27見込	423,854	—	401,072	394,113	385,884	367,915	410,000
基準値(H21)	目標値	H23	H24	H25	H26	H27見込									
423,854	—	401,072	394,113	385,884	367,915	410,000									

	<p>余暇の過ごし方が変化し、老朽化した既存の図書館がそれらに対応できていないことも要因として考えられます。</p>
<p>課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> 高度情報化が進む社会情勢にあって、スマートフォン・タブレット端末等の情報メディアの急速な普及により、若年層を中心とした「読書離れ」が深刻な問題となっており、全国的にも図書館利用者が減少傾向にある中で、多様化する市民ニーズに対応するため、柔軟で適切なサービスの提供や環境の整備に取り組む必要があります。

2 総括

前期5年間では、多くの市民が生涯学習活動に参加するための環境づくりや、現代的課題など多様な分野をテーマとした講座を通して、市民の生涯学習活動を促進しました。また、家庭・地域の教育力の向上のため、学校、家庭、地域の連携を図りながら、家庭教育や郷土に関する講座を開催するなど、地域の大人と子どもの体験活動を通して、家庭教育・地域教育を推進しました。さらに、生涯学習関連施設の整備においては、地区市民館、図書館、窓口センターの複合施設として「大清水まなび交流館」を開館するとともに、計画的に施設の充実を図りました。

このような前期の取組みを継続的に発展させ、学んだ成果を適切に活かすことのできる生涯学習社会を実現するためには、地域の豊かなつながりの中で、学びの輪が広がるような生涯学習の好循環が生まれることが重要です。そこで、今後5年間は、引き続き様々な学習機会の提供を行うとともに、市民一人ひとりが学んだ成果を地域で発揮できる環境づくりを図るため、様々な取組みを進めていく必要があります。

図書館においては、市民ニーズに対応した柔軟なサービスの提供と気軽に利用できる環境の整備を進めていく必要があります。

第3章

豊橋市生涯学習推進計画（2016-2020）
の方向性

第3章 豊橋市生涯学習推進計画（2016－2020）の方向性

1 計画の基本的な考え方

前期においては、基本理念のもと、「生涯学習活動の促進」により得られた学習成果を、「家庭教育・地域教育の推進」に活用することにより、「生涯学習・社会教育施設、図書館の充実」を基盤として、新たな学習の需要を生み出す「知の循環型社会」の構築を目指してきました。

こうした中、平成25年6月に国が「第2期教育振興基本計画」を策定し、生涯学習関連では、「現代的・社会的な課題に対応した学習等の推進」、「絆づくりと活力あるコミュニティの形成に向けた学習環境・協働体制の整備推進」、「豊かなつながりの中での家庭教育支援」、「社会教育推進体制の強化」を基本施策として掲げました。

また、同年3月に愛知県では、「愛知県生涯学習推進計画」を策定し、市町村に期待される役割として、学習成果を地域へ還元しやすい環境を作り、地域住民によるまちづくりなどを進め、生涯学習を通じた新しいコミュニティの再構築を推進することを示しました。

本計画では、前章で整理した前期の総括及び近年の国・県の動向、市民アンケート調査結果を踏まえ、基本理念を踏襲し、次の3本柱を定め、学んだ成果が活用されるとともに、新たな学習の需用が喚起されるような好循環が生まれるための生涯学習の推進を行います。

<「豊橋市生涯学習推進計画」の基本理念>

だれでも、いつでも、どこでも、何でも、自発的意思によって学習でき、その成果を適切に生かすことのできる生涯学習社会の構築を図ります。

2 施策の3本柱

基本的な柱1 生涯学習機会の充実

生涯学習機会の充実を図るため、あらゆる世代の生活課題に対応した各種生涯学習講座など、実生活に即した多様な学習機会を地域の生涯学習拠点施設である市民館などで提供します。

その上で、市民一人ひとりが生涯を通じて自ら学ぶ意欲を高めるために、市民活動団体や企業などと連携した生涯学習活動を展開します。

基本的な柱2 地域における生涯学習活動への支援

市民が自ら学んだ成果を発揮できる生涯学習活動を促進するため、地域の様々な教育活動を支援するとともに、指導的立場の人材の育成を行います。

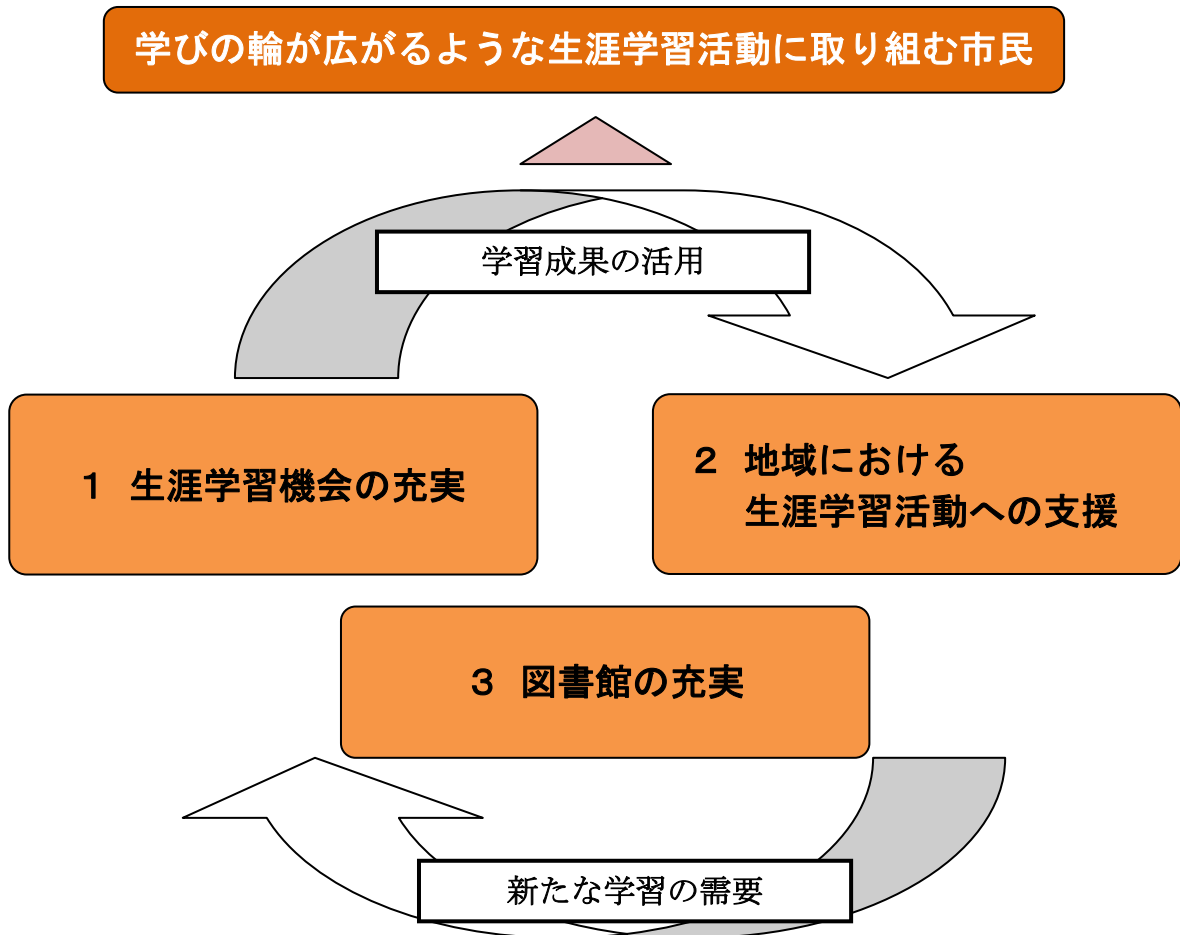
また、地域ぐるみで子どもを育てる環境を整えるとともに、家庭の教育力の向上を図るため、大清水まなび交流館をはじめとした地域の生涯学習施設を拠点として、地域の大人が持っている知識、経験を地域の子どもへ伝える活動や家庭教育に関する学習支援に取り組みます。

基本的な柱3 図書館の充実

市民の読書活動を促進するとともに地域の情報拠点となるよう、様々な資料や情報の収集・提供をはじめとしたサービスの充実に努めます。

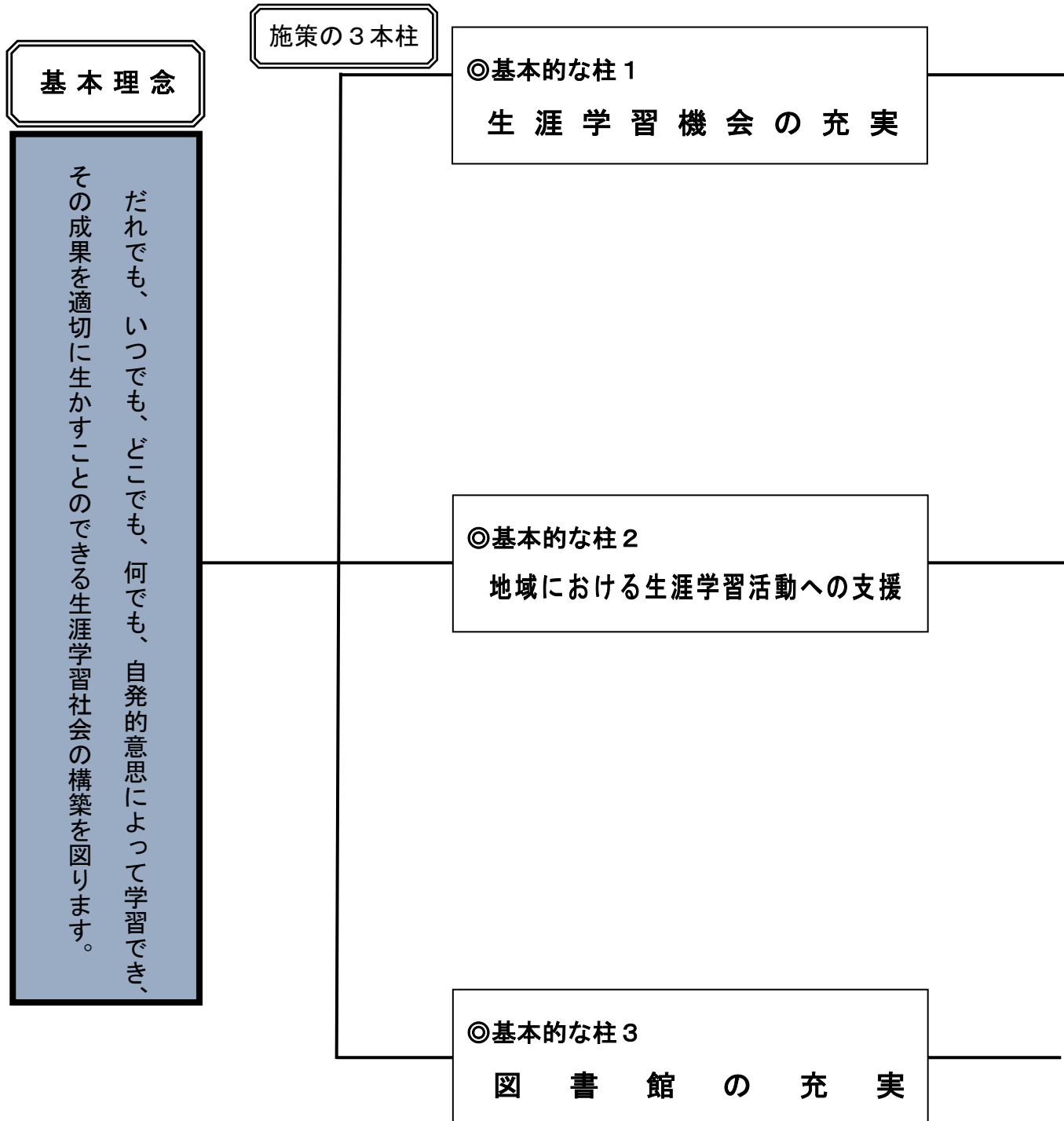
また、世代を越えて気軽に利用できるみんなの図書館となるため、電子書籍をはじめICT*の導入や、幅広い分野での魅力的なイベントの開催等、様々な市民ニーズに応えながら、誰もが過ごしやすい快適な環境づくりを進め、新たな図書館利用者の開拓を目指します。

■これからの「生涯学習の推進」のイメージ



3 計画の体系

本計画の基本理念と、今後5年間に取り組むべき具体的施策として、「施策の3本柱」及び「施策の方向」を示します。



施策の方向

(1) 一人ひとりの生涯にわたる主体的な学習への支援

- ①自己実現につながる実生活に即した学習機会の提供
- ②大学や東三河の市町と連携した学習機会の提供
- ③生涯学習に関する普及・啓発
- ④生涯学習活動を促進するための環境の整備

(2) 社会の変化に対応した生涯学習の推進

- ①社会課題に対応した学習機会の提供
- ②市民活動団体・企業などと連携した生涯学習活動の促進

(1) 地域の教育活動の推進

- ①土曜日を活用した子どもへの多様な体験学習の推進
- ②小学校区を単位とした、地域ぐるみで子どもを育てる活動の促進
- ③地域の教育活動の指導的立場となる人材の育成
- ④市民が自ら学んだ成果を地域で発揮する生涯学習活動への支援
- ⑤豊橋市の魅力を再発見し、
愛着心を醸成するシティプロモーションと連携した郷土学習の推進

(2) 家庭の教育力の向上

- ①家庭教育に関する保護者への学習支援
- ②学校、地域などと連携した家庭教育の推進

(3) 青少年教育活動の推進

- ①青少年団体活動への支援
- ②青少年の体験・交流活動の拠点施設の充実

(4) 学校、家庭、地域の連携

- ①地域の人材や資源を活かした子どもへの学習の推進
- ②地域の人材の情報の集約・提供

(5) 地域活動や団体への支援及び連携促進

- ①自主グループ活動やボランティア活動の促進
- ②社会教育関係団体活動への支援

(1) 快適で利用しやすい図書館環境整備

- ①図書館システムのネットワーク拡大
- ②障害者サービスの充実

(2) 多様化する市民ニーズへの対応

- ①ICTを活用した新たなサービスの導入
- ②郷土資料の収集・保存

(3) 新たな図書館利用者の開拓

- ①魅力的な行事・企画展の実施
- ②学校図書館連携事業の推進

第4章

生涯学習推進のための施策の3本柱

第4章 生涯学習推進のための施策の3本柱

基本的な柱1 生涯学習機会の充実

生涯学習機会の充実を図るため、あらゆる世代の生活課題に対応した各種生涯学習講座など、実生活に即した多様な学習機会を地域の生涯学習拠点施設である市民館などで提供します。

その上で、市民一人ひとりが生涯を通じて自ら学ぶ意欲を高めるために、市民活動団体や企業などと連携した生涯学習活動を展開します。

施策の方向

(1) 一人ひとりの生涯にわたる主体的な学習への支援

人が一生を過ごしていく中で、各段階（乳幼児期・少年期・青年期・壮年期・高齢期）において様々な課題があります。生涯を通じて、各個人が目標を持って主体的に学習活動を実践していくことは、各段階にある課題の解決につながり、次の目標に向けての新たな学習への意欲となっていきます。そのためには、一人ひとりが目標を持って主体的に学習を行うことができる環境づくりが必要です。

そのために、一人ひとりの実生活に即した多様な生涯学習機会の充実を図ります。

◆主な施策

①自己実現につながる実生活に即した学習機会の提供

市民の主体的な学習活動を支援し、多様化する学習ニーズに対応するため、市民館などの生涯学習関連施設を活用し、あらゆる世代を対象とした「市民大学トラム」*などの生涯学習講座を実施します。

趣味教養的な内容をはじめ、自己実現につながる実生活に即した多様な講座を平日の昼間だけでなく、土日や夜間など、受講対象となる人のライフスタイルに合わせて開催し、より多くの方が生涯にわたって学ぶことができる機会を提供します。

また、今後ますます高齢化が進む中で、高齢者一人ひとりが健康で生きがいを持って生活していくことができるよう「高齢者セミナー」を開催します。高齢者同士の学習活動の場の提供や仲間づくりを促進していくとともに、豊富な知識や経験が地域社会へ還元されるきっかけづくりを行います。

②大学や東三河の市町と連携した学習機会の提供

市内の3大学や近隣市町と連携して「市民大学トラム連携講座」を開催します。

大学との連携講座では、豊橋技術科学大学、愛知大学、豊橋創造大学を会場とし、高等教育機関である各大学が持っている専門知識と市民の実生活とを関連づけた講座を開催します。多分野にわたる学術や研究成果などをより身近な知識として得る場とするとともに、社会人の学び直しの機会としても実施します。

また、東三河の近隣市町との連携講座では、自然や歴史など、各市町固有

の資源を活かした講座を開催します。学習者自ら各市町に赴き、体験し、学ぶ場をつくり、東三河の魅力を一体的に発見できる学習機会を提供します。

③生涯学習に関する普及・啓発

市民一人ひとりが生涯を通じて学習することの意義について理解を深め、自発的な学習意欲が高まるよう、生涯学習に関する普及・啓発を継続的に行います。

本市では、生涯学習情報紙「glad! (グラッド)」^{*}を発行し、市内の公共施設だけでなく、多くの民間施設や教育施設へも配布することにより、あらゆる世代の人々に市主催事業をはじめ、市内の大学、近隣市町、関係団体が実施するイベント・講座を総合的、一体的に提供します。

また、生涯学習に関するフェスティバルなど、生涯学習に関する学習成果の発表の場を設け、学習者の更なる意欲の向上とともに、より多くの人々が生涯学習活動を始めるきっかけづくりを行います。

④生涯学習活動を促進するための環境の整備

生涯学習活動を促進するためには、あらゆる世代の人々が多様な活動を行うことができる環境づくりが必要です。

地域の身近な生涯学習の場である市民館では、地域住民がより気軽に集まることができるよう、地域の様々な情報を収集、提供するとともに、図書などの資料を揃え、自発的な生涯学習活動ができる環境を整えます。また、各種生涯学習講座や自主グループ活動など、市民館での活動の様子をホームページで公開するとともに、「市民館だより」を地域内に配布することで利用

促進を図ります。

生涯学習関連施設の整備では、平成27年3月までに地区市民館9館のリニューアルを終了し、施設のバリアフリー化、子育て支援機能の充実を行いました。また、平成25年4月のアイプラザ豊橋のリニューアルオープンに合わせ、生涯学習機能を整備するとともに、新たに、南部地域の生涯学習の拠点となる複合施設（南稜地区市民館、大清水図書館、大清水窓口センター）として、平成27年4月に大清水まなび交流館を開館しました。今後も市民館を中心に、生涯学習関連施設が安全・快適に利用できるよう、ユニバーサルデザイン*に配慮した改修などを引き続き計画的に行います。青少年教育施設については、青少年人口の減少を勘案しながら、老朽化への対応や、多様な利用方法を検討します。

◆取組みの目標

- ・生涯学習講座への参加者数を21,000人に増やします。

(H26年度実績 19,718人)



■市民大学トラム



施策の方向

(2) 社会の変化に対応した生涯学習の推進

少子高齢化に伴う人口減少時代の到来や、科学技術の急速な進歩や情報化など社会環境が激しく変化していく中で、様々な課題に対応した学習の推進が求められています。教育基本法第12条においても、社会において行われる教育は、個人の要望だけでなく、社会の要請に応じた課題などに対応した学習を行政が奨励することとなっています。

変化する社会の中で充実した生活を営んでいくためには、このような社会課題に対し、学習者同士の共有体験による、人と人とのつながりが生まれる場が創出され、学習者自らが身近な問題として認識し、課題解決へとつなげていくことが必要です。

そこで、防災、人口減少など、近年の社会課題をテーマとした生涯学習機会を提供するとともに、地域環境の保全、消費者教育、男女共同参画社会の形成などの諸課題に対しても引き続き関係機関と連携しながら学習機会を提供し、身近な課題として関心が高まるような環境づくりを行います。

また、まちづくりの一翼を担う市民活動団体・企業などと連携した生涯学習講座を開催し、社会の動向にも対応した多様な生涯学習活動を促進します。

◆主な施策

①社会課題に対応した学習機会の提供

社会の変化に対応した生涯学習を推進するためには、市民一人ひとりが課題を認識し、関心や知識を深めることが重要です。

東日本大震災をきっかけに、防災の重要性が見直されており、人々の関心も高まっています。中でも、南海トラフ巨大地震の発生による被害が危惧される本市では、防災に関する知識の習得だけでなく、地域全体で防災意識を高めていく必要があります。そのため、防災をテーマとした講座などを、避難所に指定されている市民館と地域が連携しながら開催します。

②市民活動団体・企業などと連携した生涯学習活動の促進

市民活動団体・民間企業などが持つ専門性を取り入れ、社会の動向に対応した多様な生涯学習活動を促進します。

「市民大学トラム」など各種講座において、市民活動団体・企業などから講師を招き、その専門性を活かし開催します。

また、企業と連携し、家庭教育やワーク・ライフ・バランスなどの重要性を学ぶ「企業内生涯学習活動」を推進し、自発的に学習する時間が確保しづらい勤労者に対する学習機会を提供します。さらに、地域の身近な生涯学習活動の場である市民館や各種講座を紹介し、新たな学習者の開拓に努めます。

◆取組みの目標

- ・社会課題に対応した講座への参加率を90%に高めます。

(H26年度実績 72%)



■防災をテーマとした「市民大学トラム」



■企業内生涯学習活動

基本的な柱 2 地域における生涯学習活動への支援

市民が自ら学んだ成果を発揮できる生涯学習活動を促進するため、地域の様々な教育活動を支援するとともに、指導的立場の人材の育成を行います。

また、地域ぐるみで子どもを育てる環境を整えるとともに、家庭の教育力の向上を図るため、大清水まなび交流館をはじめとした地域の生涯学習施設を拠点として、地域の大人が持っている知識、経験を地域の子どもへ伝える活動や家庭教育に関する学習支援に取り組みます。

施策の方向

(1) 地域の教育活動の推進

市民の互助・共助による地域づくりを促進するためには、市民一人ひとりが学習を通して必要な知識・技術などを身につけるだけでなく、人と人とのつながりを生む様々な教育活動が地域で行われることが重要です。

そのため、学校、家庭、地域が互いに連携しながら、地域の大人が子どもに対し多様な体験活動を提供するなど、地域ぐるみで子どもを育てる環境づくりに取り組む必要があります。また、地域の教育活動の指導的立場となる人材の育成を行い、市民が自ら学んだ成果を様々な教育活動に還元する取組みを支援する必要があります。

◆主な施策

①土曜日を活用した子どもへの多様な体験学習の推進

大清水まなび交流館において、南稜地区をモデル地区とした「土曜日の教育活動モデル事業」を実施します。土曜日を活用し、学校外において、地域の大人が地域の子どもの多彩な体験活動、教育活動を行うことで、子どもの体験量を増やし、知・徳・体の調和のとれた人間形成を図るとともに、地域の教育力、子どもの学力・体力の向上へとつなげます。

このモデル事業を検証した後、小学校区単位での活動へと波及させ、地域の教育活動の活性化へとつなげ、市内の他地区での実施を目指します。

②小学校区を単位とした、地域ぐるみで子どもを育てる活動の促進

校区市民館を中心に開催されている「地域いきいき子育て促進事業」など、小学校区を単位とした子どもへの教育活動を促進します。土曜日の教育活動と連携することで、大人と子どもの顔と顔が見える関係を築き、地域ぐるみで子どもを育てる環境づくりを行います。

③地域の教育活動の指導的立場となる人材の育成

「地域教育リーダー養成事業」を通して、地域の教育活動の指導的立場となる人材の育成を図ります。生涯学習市民アンケートの結果から、人材育成に関しては、「育成すること」よりも、「育成した人材が活動できる仕組みづくりが必要」と感じている人が多い傾向が分かります。そのため、育成した人材が主体的に活躍できるよう、地域の教育活動の受

け皿を整え、他事業と連携した人材育成の仕組みづくりを行います。

④市民が自ら学んだ成果を地域で発揮する生涯学習活動への支援

各校区が主体的に「生涯学習推進セミナー」を開催できるよう、地域の生涯学習活動の支援を行います。そのために、校区社会教育委員会など社会教育関係団体*に対し、「地域教育リーダー養成事業」を通して、生涯学習講座の企画のノウハウなどを学ぶ機会を提供します。市民が自発的意思によって学習した成果を自らの地域に還元することによって、各校区の生涯学習活動の活性化へとつなげます。

⑤豊橋市の魅力を再発見し、愛着心を醸成するシティプロモーションと連携した郷土学習の推進

郷土への愛着心や理解を深めるとともに、本市の魅力を改めて感じてもらおうシティプロモーション*運動と連携した講座を地区市民館で実施します。自然や文化財など、本市全体または各地域固有の資源を題材とした講座を継続して行い、本市への愛着心の醸成を図ります。また、学んだ成果を他者へ伝える活動を促進し、地域の教育活動の活性化へとつなげます。

◆取組みの目標

- ・土曜日を活用した子どもの体験学習への参加者数を1,000人にします。

(H26年度実績 指数なし)



■地域教育リーダー養成事業



■地域住民が開催する生涯学習推進セミナー

施策の方向

(2) 家庭の教育力の向上

家庭は、子どもの人格形成が行われる最初場であり、子どもの成長にとって大きな役割を担っています。社会のルールや物事の善悪を理解させ、規則正しい生活や社会性を身につけさせるなどの重要な役割を担うと同時に、親や地域の人との強い絆を通じて、子どもに安心とやすらぎを与える場ではなくてはなりません。

そのため、「家庭はすべての教育の出発点である」ことを認識し、家庭の役割に関する保護者への学習支援などを行うとともに、子育て支援活動とも連携しながら家庭の教育力の向上を図る必要があります。また、地域の教育活動を推進する中で、学校、家庭、地域がそれぞれの役割を認識し、互いに連携を図りながら、将来を担う子どもの育成に努め、地域全体で家庭を支えていく環境づくりに取り組む必要があります。

◆主な施策

①家庭教育に関する保護者への学習支援

乳幼児期に比べ小中学生の保護者は、家庭教育への関心が低くなる傾向があります。そこで、小中学生の保護者を対象に、家庭教育に関心を持つきっかけづくりとして、「家庭教育セミナー」を開催します。保護者が気軽に学習できるよう、地域の身近な施設である市民館などにおいて、講演会や親子の体験活動などを開催し、家庭教育の重要性の認識や、親子の絆と相互理解を深めていきます。

また、家庭教育に関する学習支援をより充実させるため、家庭教育について学習者同士が学び合う「家庭教育講座」を連続講座で開催します。家庭教育に対する更なる関心を高めるとともに、学びを通して、学習者同士が共感し、支え合うことができる関係が生まれるよう、孤立しがちな社会環境におかれている保護者へのきめ細かな学習支援を行います。

さらに、市民館などで開催される「幼児ふれあい教室」などの子育て支援活動と情報共有するなど、相互連携を図りながら家庭教育に関する学習支援を行い、乳幼児期から思春期までの子を持つ保護者にライフステージ^{*}に応じた内容の学習機会を提供することで、家庭の教育力の向上を図ります。

②学校、地域などと連携した家庭教育の推進

家庭教育について学ぶ機会が少ない保護者のために、小中学校と連携した「子育て学習講座」や「思春期家庭教育講座」、企業などと連携した「企業内生涯学習活動」を実施します。就学時健診や入学説明会など、学校行事と連携した講演会や、企業内研修と連携した勤労者向けの講座やワークショップなどを開催し、家庭教育に関する多様な学習機会を提供していきます。これらの事業を通して、より多くの保護者に対し、家庭教育に関する学習支援を充実させるとともに、学校をはじめ地域社会全体で家庭を支えていく教育活動を推進します。

◆取組みの目標

- ・家庭教育事業への参加者数を 4,800 人に増やします。

(H26 年度実績 4,426 人)



■家庭教育講座



施策の方向

(3) 青少年教育活動の推進

近年の全国的な調査結果では、青少年の屋外での自然体験は増加に転じているものの、全体的には依然少ない傾向が見られます。自然体験や生活体験が豊富な青少年ほど、自己肯定感や道徳観・正義感も高い傾向にあることから、青少年の健全な心身の発達を促すには様々な体験活動がきわめて重要です。

そのため、青少年団体と連携・協力を図りながら、少年自然の家をはじめとする青少年教育施設を拠点とし、自然体験や宿泊体験など、様々な青少年教育活動を推進する必要があります。

◆主な施策

①青少年団体活動への支援

各地域において体験活動を行っている子ども会やボーイスカウトなどの青少年団体に対し、施設利用の情報提供や加入促進のための広報協力を行うとともに、青少年団体の活動と青少年教育施設で実施する講座において、指導者・ボランティアを相互に派遣するなど、連携・協力を進めます。

②青少年の体験・交流活動の拠点施設の充実

少年自然の家、野外教育センターにおいては、小中学校の野外教育活動を受け入れ、学校と連携しながら子どもたちへの指導協力を行うとと

もに、親子で参加できる「自然体験プログラム」や日常生活・親元を離れ防災や自然観察などを体験する「くろしおチャレンジプログラム」など、関係教育機関と連携しながら自然に親しむ様々な体験機会を提供します。さらに、「体験活動指導者講習会」などの指導者養成を行うとともに、養成した指導者を青少年教育施設や青少年団体活動へ派遣するほか、地域のスポーツ活動やこども未来館、勤労青少年ホームなどの関係施設とも連携し、青少年教育活動の活性化を図ります。

また、社会的自立に困難を抱える子ども・若者が増加する中、子ども・若者総合相談窓口や少年愛護センターなど、子ども・若者の自立支援に資する機関が設置されている青少年センターでは、関係機関の連携を密にしながら、青少年健全育成の取組みへの協力・支援を行います。

◆取組みの目標

- ・青少年教育施設周辺の自然環境を活かした講座への参加者数を1,000人に増やします。

(H26年度実績 711人)



■ 「くろしおチャレンジプログラム」防災体験キャンプ



■ 「くろしおチャレンジプログラム」自然体験教室

施策の方向

(4) 学校、家庭、地域の連携

少子高齢化、核家族化などの家族形態の変容や、人々の価値観やライフスタイルの多様化に伴い、地域コミュニティの希薄化が指摘されています。そのような社会環境においては、地域の大人と子どもの異世代交流など、子どもにとって豊かな体験機会の充実を図るとともに、地域の人材を発掘・育成し、地域の大人が持っている知識や経験を子どもたちに伝えていく仕組みづくりが必要です。

そのため、学校、家庭、地域がそれぞれの役割を認識し、互いに連携し合い、地域ぐるみで子どもを育てる環境づくりに取り組む必要があります。

◆主な施策

①地域の人材や資源を活かした子どもへの学習の推進

子どもの「生きる力」*を育むためには、学校教育や家庭教育だけでなく、子どもが地域の中で多様な経験や、地域の大人とのふれあいなどを通じた豊かな体験をすることが大切です。

各小学校区において、市民館を中心に開催されている「地域いきいき子育て促進事業」を通して、地域の大人が持っている知識、経験を活かした体験活動や教育活動を子どもに提供するなど、地域の人材や資源を活かした子どもへの学習を推進します。また、学校が核となり、地域ぐるみで教育活動にかかわっている「地域教育ボランティア制度」*と連携し、地域行事への子どもの主体的な参加や、異世代交流の機会などが生

まれるよう、地域全体で子どもを育てる活動を促進します。

②地域の人材の情報の集約・提供

各種の生涯学習事業などを通して育成した人材や、各地域内で教えたいと望む人材の情報を集約した講師バンクを整備します。また、多分野にわたる人材情報を集約するだけでなく、多様な学習ニーズに対応した情報提供ができるよう、様々な地域の教育活動事業と連携した仕組みづくりを行います。

◆取組みの目標

- ・地域いきいき子育て促進事業の実施回数を 750 回に増やします。

(H26 年度実績 671 回)



■地域いきいき子育て促進事業



施策の方向

(5) 地域活動や団体への支援及び連携促進

市民一人ひとりの学んだ成果が地域で発揮され、地域の教育活動の活性化へと発展するためには、各地域において活動している諸団体との連携・協力が必要となります。校区社会教育委員会やPTAをはじめとした社会教育関係団体や、市民活動団体、市民館で活動する自主グループなど、各団体が個々の活動にとどまらず、他団体などに対して積極的に働きかけていくことが重要です。

このため、各地域の団体活動の掘り起こしを行いながら、各団体間の連携を図るなど、地域の活性化や特色ある地域づくりにつなげていくことが必要です。

◆主な施策

①自主グループ活動やボランティア活動の促進

地区市民館を拠点として、自主グループやボランティア、市民活動団体などが利用しやすい生涯学習環境を整えるとともに、各団体間の連携促進を図ります。

また、「社会教育指導員」*が中心となり、「市民大学トラム」などの各種生涯学習講座の学習者に対し、継続した生涯学習活動への指導や助言を行い、自主グループ化を促進します。

②社会教育関係団体活動への支援

校区社会教育委員会、P T Aなど、各校区の社会教育関係団体が行っている様々な地域活動を効率的に促進するため、社会教育指導員が各団体への支援や各校区内のネットワーク化構築に向けた支援を行います。さらに、「地域教育リーダー養成事業」や「地域いきいき子育て促進事業」、「地域教育ボランティア制度」と連携し、社会教育関係団体が地域の教育活動の中心的な役割を担うことができるよう支援します。

◆取組みの目標

- ・市民館で活動する自主グループの団体数を2,000団体に増やします。

(H26年度実績 1,898団体)



■市民館で活動する自主グループ

基本的な柱3 図書館の充実

市民の読書活動を促進するとともに地域の情報拠点となるよう、様々な資料や情報の収集・提供をはじめとしたサービスの充実に努めます。

また、世代を越えて気軽に利用できるみんなの図書館となるため、電子書籍をはじめICTの導入や、幅広い分野での魅力的なイベントの開催等、様々な市民ニーズに応えながら、誰もが過ごしやすい快適な環境づくりを進め、新たな図書館利用者の開拓を目指します。

施策の方向

(1) 快適で利用しやすい図書館環境整備

図書館は、最も身近な知の拠点として、市民ニーズに応じた情報を提供する場であると同時に、近年では、気軽に集まることができるコミュニケーションの場としての機能が求められています。

また、高齢化社会を迎え高齢者の利用増加が見込まれる中、ゆっくり過ごせる滞在型の図書館利用がますます増えると考えられます。さらに、障害者差別解消法に対応した障害者サービスが求められるため、館内施設・設備への配慮も必要です。

こうしたことから、ゆったりとくつろげる居心地の良い空間を提供し、読書や学習の場としてだけでなく、子どもから大人まで誰もが来たくするような、身近にあって気軽に利用できる、親しまれる図書館を目指します。また、世界を広げ、まちづくりにつなげる“知と交流の創造拠点”として、まちなか図書館（仮称）を整備します。

◆主な施策

①図書館システムのネットワーク拡大

広範な市域に均質な図書館サービスを提供するため、より身近な場所で利用できるサービスポイントを拡充し、市民の利便性向上を図るとともに、図書館システムのネットワークを再構築します。

②障害者サービスの充実

障害者差別解消法に対応するため、音声図書等の障害者向けサービスを充実するとともに、障害者に配慮した環境の整備を行います。

◆取組みの目標

- ・図書館分室ネットワーク館の利用者数を 75,000 人に増やします。

(H26 年度実績 67,649 人)

施策の方向

(2) 多様化する市民ニーズへの対応

図書館は、個人や地域が直面している様々な課題について、情報資源の提供により、解決を支援していくことが重要な役割として求められてきています。そのために、膨大な情報の中から信頼性の高い情報を的確に提供することが重要です。

市民が様々な情報資源を活用して課題を解決し、誰でも利用できる情報拠点として生活に役立つ図書館となるため、サービスや設備の構築を目指します。

◆主な施策

① ICTを活用した新たなサービスの導入

新しい形態による情報資源の提供について検討を進め、紙と電子媒体による図書館サービスのハイブリッド化を推進していくとともに、ICTを活用した新たなサービスへの展開を目指します。

②郷土資料の収集・保存

貴重な郷土資料を積極的に収集・保存していくとともに、デジタルアーカイブの整備に取り組み、市民に活用されるよう努めます。

◆取組みの目標

- ・提供可能な電子媒体資料数を 12,500 点に増やします。

(H26 年度実績 200 点)

施策の方向

(3) 新たな図書館利用者の開拓

図書館は、市民の知的要求に応え、常に新しい情報を提供するという図書館本来の使命を果たすとともに、図書館に集まる人が交流し、ふれあいや心のつながりを大切にできる地域の交流拠点としての役割が重視されるようになってきました。

知の拠点としてだけでなく、あらゆる世代にとって魅力的なイベントや講座等を開催するとともに、地域の魅力を広く発信し、それにより市民が多様な価値観と出会い、人と人・人と情報をつなぎ、まちの文化を創り出す地域の交流拠点となることを目指します。

◆主な施策

①魅力的な行事・企画展の実施

多機能な知の拠点として、図書館をあまり利用したことのない人が来館するきっかけとなる魅力的なイベントや講座等を開催し、図書館の利用促進に努めます。

②学校図書館連携事業の推進

子どもたちが本に親しみ、興味を持つきっかけをつくるため、学校図書館連携事業「図書館へ行こう！」を実施するとともに、図書を使った学習活動の支援を行い、学校図書館との連携を図ります。

◆取組みの目標

- ・新たな図書館利用者（新規登録者数）を 9,000 人に増やします。

（H26 年度実績 4,331 人）



■大清水図書館閲覧コーナー

第5章

計画の推進にあたって

第5章 計画の推進にあたって

1 推進体制

生涯学習に関する施策は、教育分野だけでなく、子育て支援、福祉、健康、産業などの各分野と深く関連し、多岐に及ぶため、関係部局との連携体制で施策を総合的かつ計画的に推進します。

施策の推進にあたっては、取組みの成果向上を図るため、学校、家庭、地域、市民活動団体、企業など関係者との十分な連携・協働に努めます。

また、変化の激しい社会情勢を受けて、対応すべき施策も刻々と変化していくと予想されるため、そのような変化にも柔軟に対応できるよう努めます。

2 効果の検証

本計画の効果の検証は、本市がこれまで取り組んできた行政評価の仕組みを活用するとともに、あらかじめ設定した指標を中心に進捗状況を検証します。

検証は、豊橋市社会教育審議会の意見も入れることで、客観性、透明性が高いものとしします。

検証結果に基づき、個々の事業について毎年、必要な見直しと改善（P D C Aの展開）を行います。

3 計画の指標・取組み目標（5年後）

市民自ら学ぶ環境が整えられ、学びの輪が広がるような生涯学習活動が活発に行われていることを目指します。

【指標】

指標名	H26年度実績	H32年度目標値
地域の教育活動事業への参加者数	24,464人	28,000人
図書館の年間入館者数	638,866人	1,100,000人

【取組み目標】

基本的な柱1 生涯学習機会の充実

施策の方向	取組み目標
(1) 一人ひとりの生涯にわたる 主体的な学習への支援	生涯学習講座への参加者数を21,000人に増やします。 (H26年度実績 19,718人)
(2) 社会の変化に対応した 生涯学習の推進	社会課題に対応した講座への参加率を90%に高めます。 (H26年度実績 72%)

基本的な柱2 地域における生涯学習活動への支援

施策の方向	取組み目標
(1) 地域の教育活動の推進	土曜日を活用した子どもの体験学習への参加者数を1,000人にします。 (H26年度実績 指数なし)
(2) 家庭の教育力の向上	家庭教育事業への参加者数を4,800人に増やします。 (H26年度実績 4,426人)

施策の方向	取組み目標
(3) 青少年教育活動の推進	青少年教育施設周辺の自然環境を活かした講座への参加者数を 1,000 人に増やします。 (H26 年度実績 711 人)
(4) 学校、家庭、地域の連携	地域いきいき子育て促進事業の実施回数を 750 回に増やします。 (H26 年度実績 671 回)
(5) 地域活動や団体への支援 及び連携促進	市民館で活動する自主グループの団体数を 2,000 団体に増やします。 (H26 年度実績 1,898 団体)

基本的な柱 3 図書館の充実

施策の方向	取組み目標
(1) 快適で利用しやすい 図書館環境整備	図書館分室ネットワーク館の利用者数を 75,000 人に増やします。 (H26 年度実績 67,649 人)
(2) 多様化する市民ニーズ への対応	提供可能な電子媒体資料数を 12,500 点に増やします。 (H26 年度実績 200 点)
(3) 新たな図書館利用者の開拓	新たな図書館利用者（新規登録者）を 9,000 人に増やします。 (H26 年度実績 4,331 人)

資料編

○生涯学習関連施設一覧

【 全市施設 】

大清水まなび交流館「ミカル」	市民文化会館	西川芸能練習場
三の丸会館	ライフポートとよはし	公会堂
徳の国とよはし芸術劇場「PLAT」	アイプラザ豊橋	市民センター
総合動植物公園	教育会館	野外教育センター
少年自然の家	青少年センター	中央図書館
向山図書館	大清水図書館	美術博物館
二川宿本陣資料館	民俗資料収蔵室	文化財センター
駒屋	自然史博物館	石巻自然科学資料館
地下資源館	視聴覚教育センター	市民プール
武道館	トレーニングセンター	グリーンスポーツセンター
岩田総合球技場	総合体育館	アクアリーナ豊橋
りすば豊橋	市野球場	市テニス場
勤労青少年ホーム	男女共同参画センター「パルモ」	交通児童館
こども未来館「ここにこ」	総合福祉センター「あいトピア」	障害者福祉会館「さくらピア」
労働会館		

【 地区学習施設 】

二川地区市民館	豊岡地区市民館	東陽地区市民館
南稜地区市民館	青陵地区市民館	杉山地区市民館
石巻地区市民館	羽根井地区市民館	吉田方地区市民館
五並地区市民館	牟呂地区市民館	高豊地区市民館
北部地区市民館	南部地区市民館	豊城地区市民館
中部地区市民館	高師台地区市民館	東部地区市民館
東部地区市民館飯村分館	南陽地区市民館	本郷地区市民館
東陵地区市民館	前田南地区体育館	新栄地区体育館

牛川地区体育館	草間地区体育館	飯村地区体育館
下五井地区体育館	浜道地区体育館	二川地区体育館
石巻地区体育館	大清水地区体育館	八町地域福祉センター
つつじが丘地域福祉センター	大清水地域福祉センター	牟呂地域福祉センター
仁連木老人福祉センター	下地老人福祉センター	高師老人福祉センター
石巻老人福祉センター	大岩老人福祉センター	西川老人憩の家
東細谷老人憩の家	城下老人憩の家	牟呂高齢者活動センター
石巻高齢者活動センター		

【 校区学習施設 】

東田校区市民館	松葉校区市民館	津田校区市民館
磯辺校区市民館	大崎校区市民館	鷹丘校区市民館
下条校区市民館	多米校区市民館	旭校区市民館
谷川校区市民館	花田校区市民館	高師校区市民館
野依校区市民館	植田校区市民館	牛川校区市民館
西郷校区市民館	石巻校区市民館	石巻校区市民館金田分館
小沢校区市民館	豊南校区市民館	賀茂校区市民館
芦原校区市民館	岩田校区市民館	豊校区市民館
大村校区市民館	幸校区市民館	福岡校区市民館
栄校区市民館	嵩山校区市民館	二川校区市民館
高根校区市民館	老津校区市民館	下地校区市民館
牟呂校区市民館	吉田方校区市民館	天伯校区市民館
大清水校区市民館	向山校区市民館	玉川校区市民館
細谷校区市民館	飯村校区市民館	富士見校区市民館
中野校区市民館	八町校区市民館	二川南校区市民館
汐田校区市民館	松山校区市民館	つつじが丘校区市民館
新川校区市民館	前芝校区市民館	

○講座の開催状況

■市民大学トラム

区分	22		23		24		25		26	
	講座数	参加者	講座数	参加者	講座数	参加者	講座数	参加者	講座数	参加者
一般コース	67	2,057人	73	2,038人	80	2,235人	73	2,174人	70	2,351人
高齢者コース	23	1,945人	23	1,943人	23	1,787人	22	1,754人	22	2,111人

■高等教育機関等との連携の実績

①豊橋技術科学大学

年度	講座名	参加者(人)
22	太陽光型植物工場の現状と今後の展望	72
23	若手研究者が見た災害と大震災への備え	92
24	日本の未来を支えるエネルギー問題解決への最前線	53
25	安全安心な家づくり・まちづくり	64
26	ロボットと人間の未来 最先端技術を知る・触れる	91

②愛知大学

年度	講座名	参加者(人)
22	わが街 豊橋再発見	104
23	変わりゆく教養 -21世紀の芸術・学問のあり方を考える	84
24	世界の歴史と文化 食べ歩き	99
25	家庭における心の健康	60
26	スポーツが市民に与える効果	67

③豊橋創造大学

年度	講座名	参加者(人)
22	心と体 暮らしの中に隠れている諸問題	261
23	短大が目指す人材の「地産地消」	115
24	経営学の原理/経営フロンティア	88
25	生と死について考えよう	217
26	生活を考える 「あなたは」豊かな生活を送っていますか	236

④豊橋工業高等学校

年度	講座名	参加者(人)
22	第二種電気工事士 技能試験対策講座	16
23	CAD を利用した機械製図の基礎	18
24	CAD と木工	12
25	初級 電子オルゴール作りに挑戦!	10
26	ボールペン・ペン立てづくりに挑戦!	9

■企業内生涯学習活動の実績

年度	講座名	グループ・企業名	参加者(人)
22	企業内における家庭教育	(株) 経真ダスキン あけぼの支店	14
	こどもとのコミュニケーションのとり方	豊橋信用金庫	25
23	「子どもたちが大人になることを楽しみにできる」そのためには?	生活協同組合 コープあいち	17
	子育てと仕事のバランスの取り方	豊橋信用金庫	24
24	子どもとのコミュニケーションにおいて大切にしたいこと	シンフォニア テクノロジー (株)	14
	子どもが育つコミュニケーション術	豊橋信用金庫	12
	子育てと仕事のバランスの取り方	ヤマサちくわ (株)	25
25	子どもとのコミュニケーションの取り方	豊橋信用金庫	19
	生涯現役の実現セミナー	ヤマサちくわ (株)	14
	効果的なコミュニケーション方法		14
	女性ならではのワークライフバランスについて	(株) 大木家	11
26	思春期の子どものしつけや接し方	豊橋信用金庫	19
	ステキなオンナのワークライフバランス	(株) 大木家	26
	効果的なコミュニケーション方法	ヤマサちくわ (株)	15
	これからの人生設計	(株) システムハウス	28

■近隣市町との連携の実績

年度	講座名	参加者(人)
22	健康ウォーキング～歩いて知る東三河の自然と史跡	61
23	健康ウォーキング～歩いて知る東三河の自然と史跡Ⅱ	49
24	東三河の史跡をめぐろう	60
25	歩いて探そう東三河の宝 自然編	42
	歩いて探そう東三河の宝 史跡編	62
26	歩いて探そう東三河の宝 自然編	47
	歩いて探そう東三河の宝 史跡編	52

■防災関係の講座開催実績

年度	講座名	参加者(人)	会場
26	豊岡地区に焦点化した防災・減災 避難所設備探検・被災時への対策	13	豊岡地区市民館
	防災にチャレンジ	59	高師台地区市民館

○学習情報提供の状況

■生涯学習情報紙「glad!（グラッド）」発行部数

年 度	24		25		26	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
発行部数	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000

平成27年 生涯学習市民アンケート調査の概要

1. 調査の設計

- (1) 調査地域：豊橋市全域
- (2) 調査対象：市内在住の満20歳以上の男女
- (3) 標本数：3,000人
- (4) 抽出方法：選挙人名簿から無作為抽出
- (5) 設問紙にもとづく郵送法
- (6) 調査期間：平成27年6月1日（月）～6月30日（火）

2. アンケート項目

- (1) 学校教育終了後の学習傾向
- (2) 生涯学習を行う機会
- (3) 今まで希望通りに学習できたか
- (4) 前問でできなかった理由
- (5) 今後の学習方法
- (6) 現在の学習状況ならびに今後学習したい分野
- (7) 学習のための資料の希望設置場所
- (8) 生涯学習で身についたものの生かし方
- (9) 市民大学の受講状況
- (10) 催し・講座情報を得る方法
- (11) 生涯学習情報紙『グラッド』の周知状況
- (12) 生涯学習関連施設の利用状況
- (13) 学習施設の整備状況
- (14) 人材開発・育成についての考え方
- (15) 将来の生涯学習社会のイメージ

3. 回収結果

- (1) 回収数：1,039人
- (2) 回収率：34.6%

〔問1〕

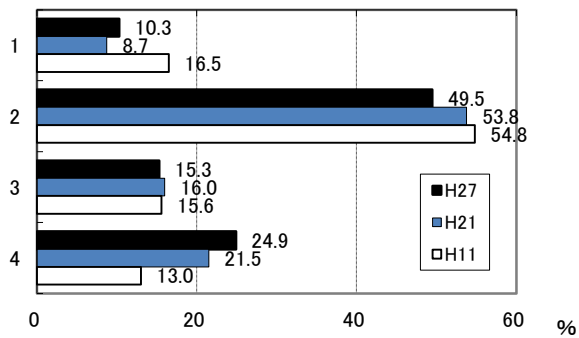
ここ数年、社会の変化等により、学校教育終了後も生涯学習活動を増えていると思われ
ますか。

1. 非常に多くなってきた

2. 多くなってきた

3. 以前（数年前）と変わらない

4. わからない



- 「非常に多くなってきた」「多くなってきた」と合わせて約60%あり、多くの人が増えたと感じていると回答しています。
- 「以前と変わらない」と回答した人は、前回、前々回と比較し、ほぼ同じ割合でした。

〔問2〕

あなたが生涯学習活動をしたいと思うのは、どのような時ですか。

1. 日常的に学んだり、活動したい

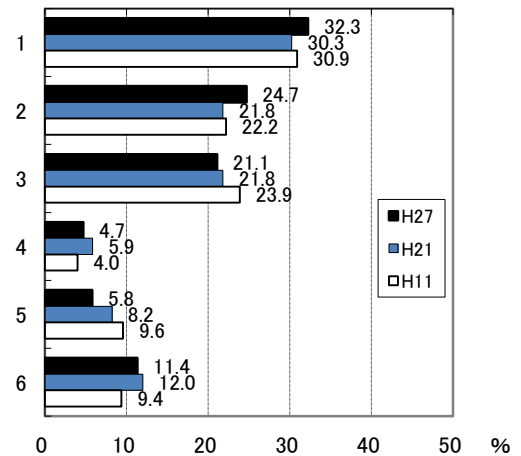
2. 困った問題が起こったり、知らなくてはいけない
ことができたとき

3. 子育てが終わる等、自由な時間ができたとき

4. 転職・転勤等、職場環境が変わったとき

5. パソコン等、新しい機器が導入されたとき

6. 資格を取得しようと思ったとき



- 全体的に前回、前々回と同様の傾向が見られます。
- 「パソコン等、新しい機器が導入されたとき」が少しずつ減少している傾向にあります。

〔問3〕

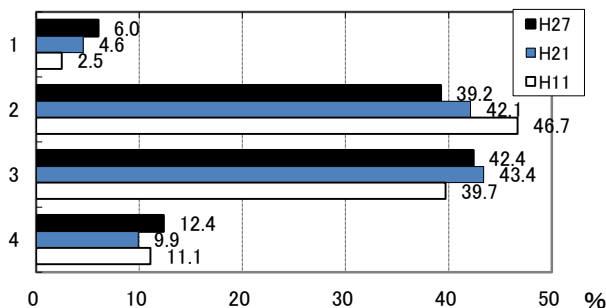
これまであなたが学びたい、活動したいと思ったとき、実践することができましたか。

1. よくできた

2. ある程度できた

3. できなかった

4. わからない



○ 学びたい、活動したいときに「できた」人と「できなかった」人の割合は、前回、前々回と比較し、あまり変化は見られませんが、依然として約40%の人が「できなかった」と答えています。

〔問4〕

前問で「できなかった」と答えた方におたずねします。
できなかった理由を次の項目から1つ選んでください。

1. 求めるテーマをやっていない

2. 求めるテーマは必要なときやっていない

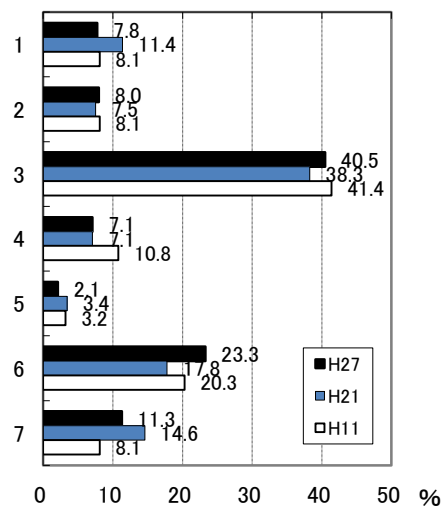
3. 求めるテーマはやっているが、時間が合わない

4. 求めるテーマはやっているが、場所が遠い

5. 求めるテーマはやっているが、難しすぎる（簡単すぎる）

6. 求めるテーマをやっているかもしれないが、情報がない

7. わからない

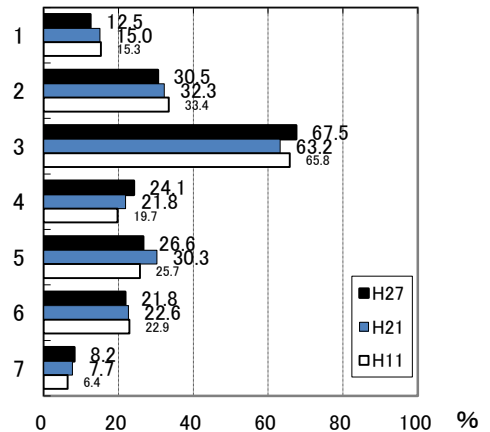


○ 学びたい、活動したいときに「できなかった」人の最も多い理由は、前回、前々回の結果と同様「時間が合わない」でした。次に多い理由の「情報がない」が17.8%から23.3%へと増加しています。

〔問5〕

今後、学び・活動するとしたら、どのようにしたいと思いますか。次の項目から2つ選んでください。

1. 入門から高度なものまで学び・活動したい
2. 時間をかけて継続的に学び・活動したい
3. わかりやすく、楽しく学び・活動したい
4. 最新の情報を知ることができれば、学び・活動したい
5. 資格取得等、役立つことであれば、学び・活動したい
6. 幅広い分野を総合的に学び・活動したい
7. わからない



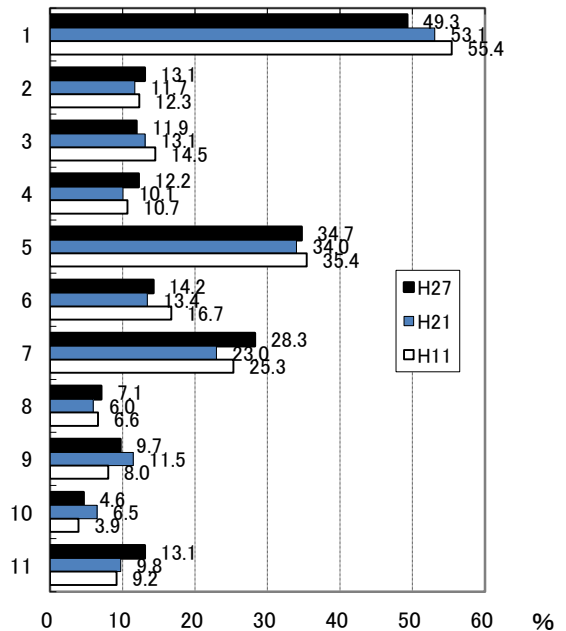
- 全体的に前回、前々回と同様の傾向にあります。
- 約67%の人は「わかりやすく、楽しく学び・活動したい」と考えており、前回、前々回同様、多くの割合を占めています。

〔問6〕

あなたの学習状況についてお聞きします。

(1) 現在あなたが学習している分野を、次の項目から選んでください。

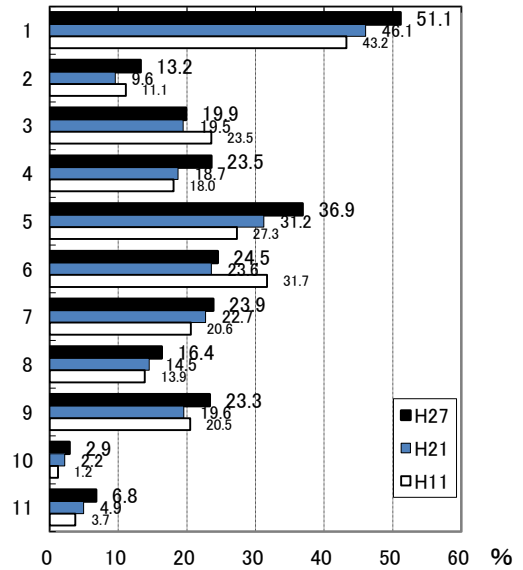
1. 教養・趣味・実技に関するもの
2. 育児・家庭教育・学校教育等子どもに関するもの
3. 自然・環境に関するもの
4. 消費生活等・生活に関するもの
5. 健康・スポーツに関するもの
6. 保健・医療・福祉・ボランティア等に関するもの
7. 自分の職業や資格取得に関するもの
8. 地域の歴史・まちづくり等まちの問題に関するもの
9. 国際交流・海外情報・外国語の学習等、海外に関するもの
10. その他
11. わからない



- 全体的に前回、前々回と同様の傾向にあります。
- 前回、前々回同様「教養・趣味・実技」が1位ですが、減少傾向にあります。

(2) 今後、あなたが学びたい学習分野を選んでください。

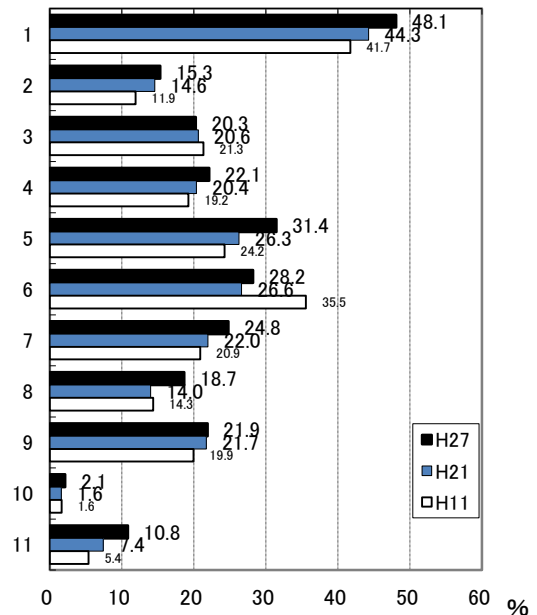
1. 教養・趣味・実技に関するもの
2. 育児・家庭教育・学校教育等子どもに関するもの
3. 自然・環境に関するもの
4. 消費生活等・生活に関するもの
5. 健康・スポーツに関するもの
6. 保健・医療・福祉・ボランティア等に関するもの
7. 自分の職業や資格取得に関するもの
8. 地域の歴史・まちづくり等まちの問題に関するもの
9. 国際交流・海外情報・外国語の学習等、海外に関するもの
10. その他
11. わからない



- 全体的に前回、前々回と同様に多様化している傾向が見られました。
- 「教養・趣味・実技に関するもの」「健康・スポーツに関するもの」が、前回、前々回と同様に増加傾向にあります。

(3) 今後、あなたが自ら学び・活動するためには、どのような分野の情報や資料があればよいと思いますか。

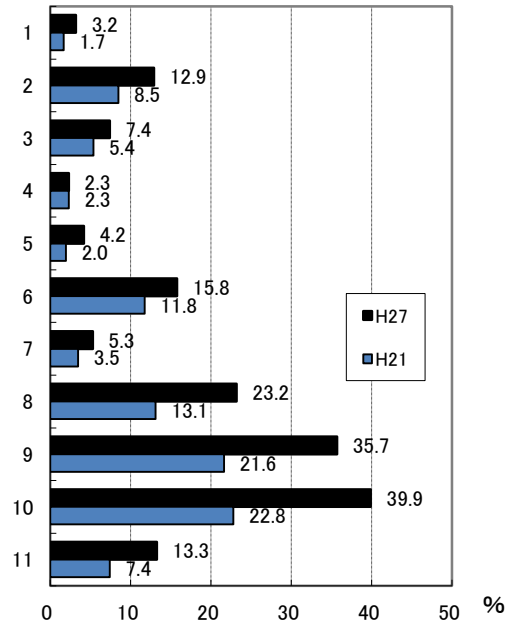
1. 教養・趣味・実技に関するもの
2. 育児・家庭教育・学校教育等子どもに関するもの
3. 自然・環境に関するもの
4. 消費生活等・生活に関するもの
5. 健康・スポーツに関するもの
6. 保健・医療・福祉・ボランティア等に関するもの
7. 自分の職業や資格取得に関するもの
8. 地域の歴史・まちづくり等まちの問題に関するもの
9. 国際交流・海外情報・外国語の学習等、海外に関するもの
10. その他
11. わからない



- 前問「今後学びたい学習分野」と同様に多様化している傾向が見られました。
- 増減の傾向も、前問「今後学びたい分野」と同様の傾向にあります。

(4) あなたは現在どのような方法で学習を行っていますか？

1. 生涯学習市民大学トラム
2. 地区市民館の講座や教室
3. その他の市の講座や教室
4. 国・県等の講座や教室
5. 学校の公開講座等
6. カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間の講座や教室
7. 民間の通信教育
8. 自主的に行っている集まり、サークル活動
9. 自宅で活動
10. パソコン・インターネット
11. その他

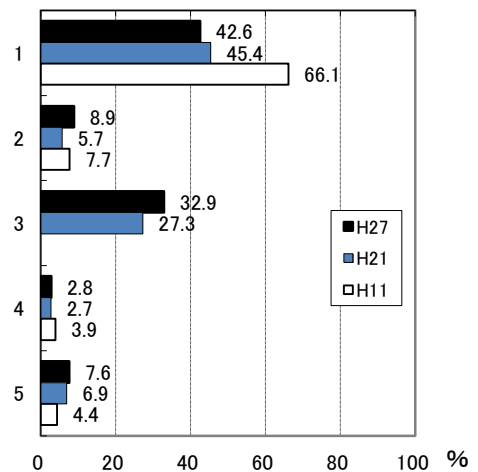


- 「パソコン・インターネット」「自宅で活動」が前回同様に上位を占めており、ともに前回から大幅に増加をしています。
- 「地区市民館の講座や教室」「カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間の講座や教室」「自主的に行っている集まり、サークル活動」などをはじめ、全体的に前回より割合が伸びています。

〔問7〕

あなたが学び・活動するために必要な情報や資料は、どこにあればよいと思いますか。

1. 身近な施設（地区・校区市民館、学校など）
2. それぞれ各分野に関連した施設（保健情報は保健所など）
3. インターネット
4. その他
5. わからない

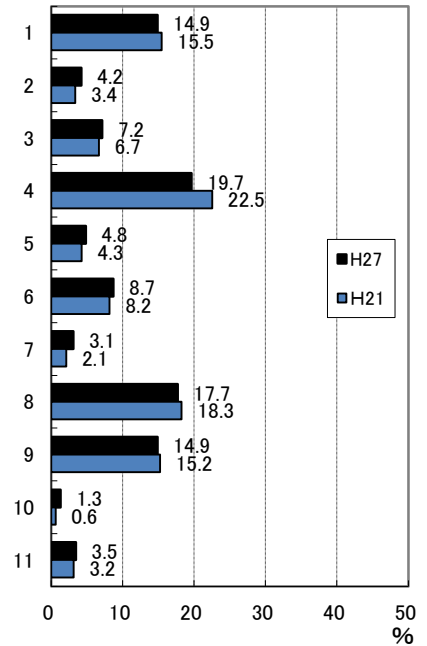


- 「身近な施設」が前回、前々回同様に1位ですが、減少傾向にあります。
- 「インターネット」が前回同様に2位で増加傾向にあり、1位の「身近な施設」に近づいてきています。

〔問8〕

あなたは、「生涯学習」を通じて身につけた知識・技能や経験をどのように生かしていますか。

1. 仕事や就職の上で生かしている
2. ボランティア活動に生かしている
3. 資格を取得した
4. 家庭・日常の生活に生かしている
5. 地域や社会での活動に生かしている
6. その知識・技能や経験を土台にして、さらに広く深い知識・技能を身につけるよう努めている
7. 他の人の学習やスポーツ、文化活動などの指導に生かしている
8. 自分の人生がより豊かになっている
9. 自分の健康の維持・増進に役立っている
10. 学業、学校生活の上で生かしている
11. 生かしていない

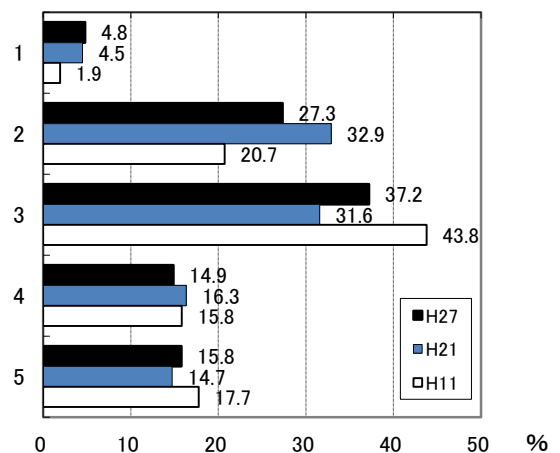


- 全体的に前回と同様の傾向が見られます。
- 前回同様、「仕事や就職の上で生かしている」「家庭・日常の生活に生かしている」「自分の人生がより豊かになっている」「仕事や就職の上で生かしている」「自分の健康の維持・増進に役立っている」の割合が高く、一方で「ボランティア活動に生かしている」「地域や社会での活動に生かしている」「他の人の学習やスポーツ、文化活動などの指導に生かしている」の割合が低い傾向にあります。

〔問9〕

現在生涯学習推進計画に基づき、生涯学習市民大学『トラム』を開設し、各種講座を開講していることはご存知ですか。

1. 『トラム』は知っていて、受講している
2. 『トラム』は知っているが、受講したことはない
3. 『トラム』は知らなかったが、内容によっては受講してみたい
4. 『トラム』は知らないし、興味を持ってない
5. わからない

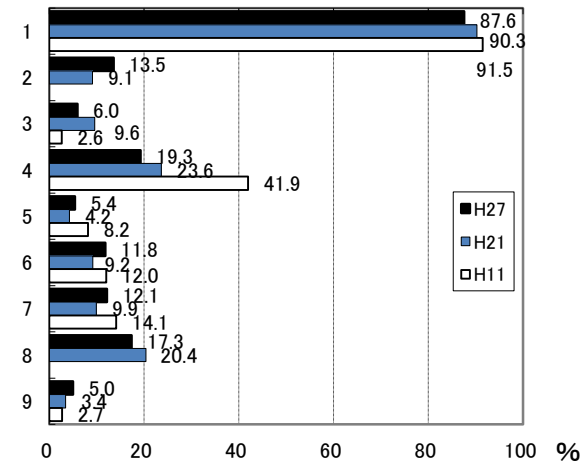


- 「『トラム』は知っていて、受講している」が、前回、前々回同様に低い割合です。ただし、「『トラム』は知らなかったが、内容によっては受講してみたい」が、前回から5.7%増えています。

〔問10〕

現在、市では各部局において、催し・講座等を開催していますが、あなたはその情報は何かから収集していますか。

1. 広報とよはし
2. 市ホームページ
3. 生涯学習情報紙『グラッド』
4. 新聞
5. ラジオ
6. チラシ
7. 友人
8. 市民館だより
9. その他



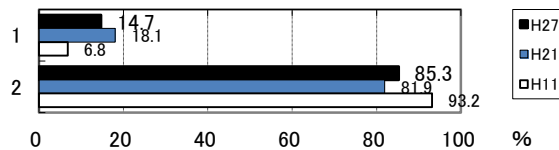
- 前回、前々回同様に「広報とよはし」が約90%の高い割合を占めています。ただし、少しずつ減少傾向にもあります。
- 全体的にどの項目も減少傾向にある中、「市ホームページ」「友人」が前回から増加しています。

〔問11〕

生涯学習情報紙『グラッド』についておたずねします。

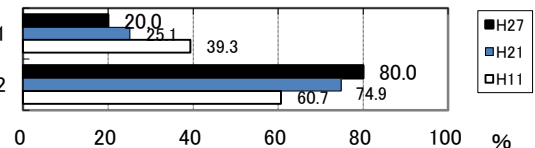
(1) 『グラッド』をご存知ですか。

1. 知っている
2. 知らない



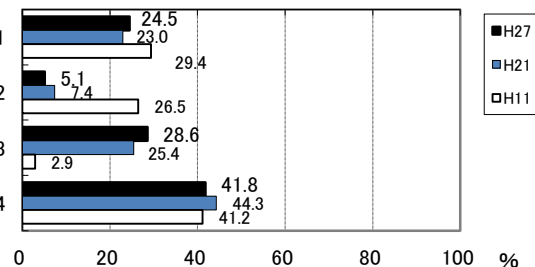
(2) 前問で「知っている」と答えた方のみお答えください。
『グラッド』を活用されたことがありますか。

1. ある
2. ない



(3) 前問で「ない」と答えた方のみお答えください。
活用しない理由について、次の項目から1つお答えください。

1. どこで手に入れるかわからない
2. 読みにくい
3. 内容に未定の部分が多い
4. その他



- 「『グラッド』をご存知ですか」の問いに対して、約15%と依然として低い割合となっています。さらに、「『グラッド』を活用されたことがありますか」の問いに対して、「ある」と答えた人の割合が大幅に減少している傾向にあります。「活用しない理由」は、「読みにくい」と答えた人の割合は減少傾向にありますが、「内容に未定の部分が多い」と答えた人の割合が増加しています。

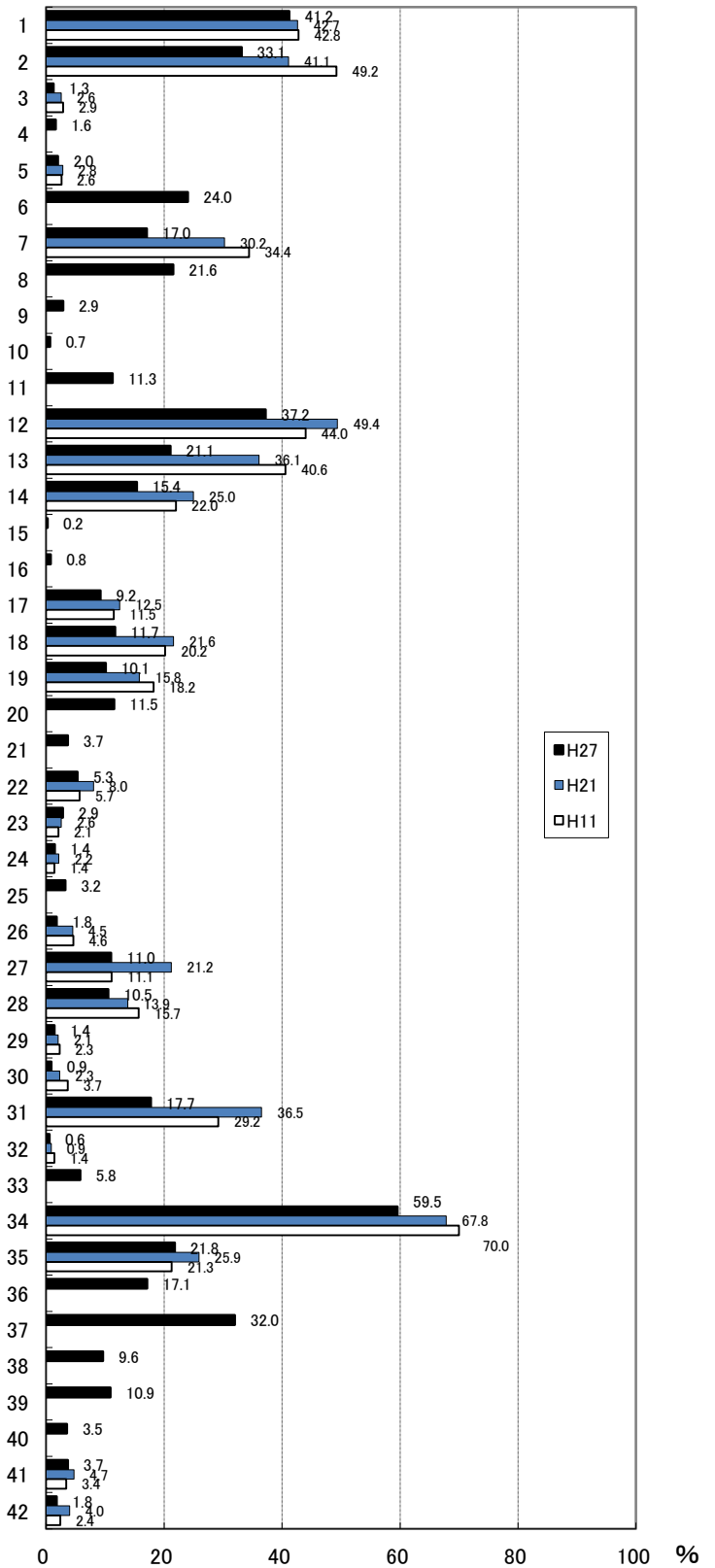
〔問12〕

本市の生涯学習関連施設の利用についておたずねします。

(1) あなたは、次の施設を過去5年以内に利用したことがありますか。

利用した方のみ、次の項目から利用頻度の高い順に5つまで選んでください。

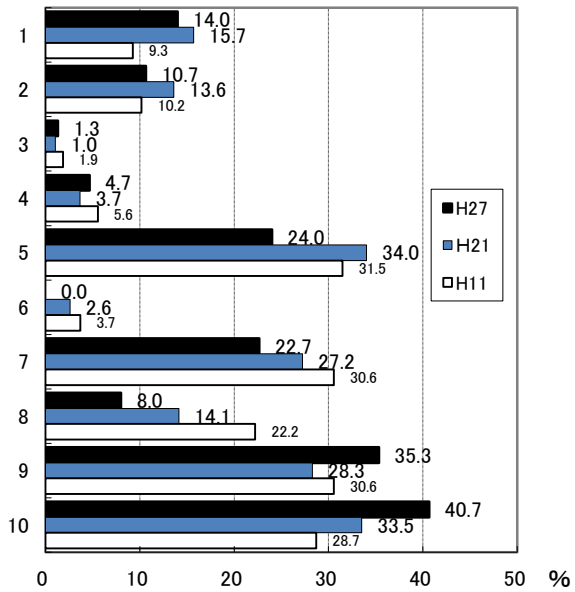
1. 地区市民館
2. 校区市民館
3. 少年自然の家
4. 野外教育センター
5. 青少年センター
6. アイプラザ豊橋
7. 市民文化会館
8. 穂の国とよはし芸術劇場「フラット」
9. 三の丸会館
10. 西川芸能練習場
11. 公会堂
12. 中央図書館
13. 美術博物館
14. 自然史博物館
15. 文化財センター
16. 民俗資料収蔵室
17. 地区体育館
18. 学校体育館
19. 総合体育館
20. アクアリーナ豊橋
21. 市民プール
22. 市野球場
23. 市テニスコート
24. 市武道館
25. トレーニングセンター
26. グリーンスポーツセンター
27. 地下資源館
28. 視聴覚センター
29. 教育会館
30. 男女共同参画センター「ハルビ」
31. ライフポートとよはしコンサートホール
32. 勤労青少年ホーム
33. 市民センター「カリアビル」
34. 総合動植物公園
35. 二川宿本陣資料館
36. りすば豊橋
37. こども未来館「ここにこ」
38. 交通児童館
39. 総合福祉センター「あいびア」
40. 障害者福祉会館「さくらびア」
41. 民間カルチャーセンター
42. その他



- 前回、前々回同様、「総合動植物公園」が1位でしたが減少傾向にあります。
- 前回、前々回同様、「地区市民館」は4割近い人に利用されていますが、「校区市民館」「中央図書館」は減少しています。
- 全体的に、以前からある施設は減少傾向にあります。また、「こども未来館「ここにこ」」などの新しい施設は高い割合となっています。

(2) 次に、上記の施設を利用したことがない方におたずねします。
それはどのような理由からですか。次の項目から主なものを2つ選んでください。

1. 施設に魅力がない
2. 施設の催しに魅力がない
3. 行っても利用できる部屋がない
4. 指導してくれる人がいない
5. 一緒に行く仲間がない
6. 子どもを預かってくれない
7. 施設が開いている時間にいけない
8. 距離が遠くて不便
9. 行く必要がない
10. わからない

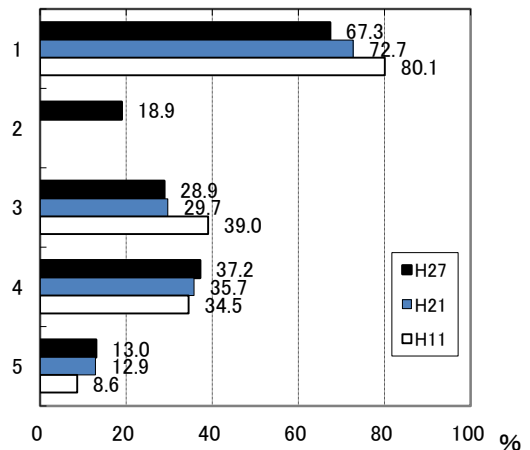


○ 「一緒に行く仲間がない」「施設が開いている時間にいけない」「距離が遠くて不便」が減少しております。一方で、「行く必要がない」と答えた人の割合は増加しています。

[問13]

今後、学習施設を整備していくとしたら、どのような考え方がよいと思いますか。
次の項目から重要な順に2つまで選んでください。

1. 既存（地区・校区市民館）施設をまず有効活用することが大切
2. 様々な学習機能が備わった複合施設を整備すべきだ
3. 身近な学習施設全般を整備すべきだ
4. 施設より学習活動の支援が大切
5. わからない

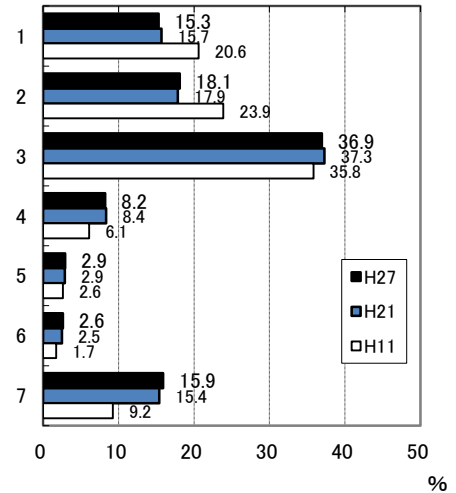


○ 全体的に減少傾向にある中、「施設より学習活動の支援が大切」が少しずつですが増加傾向にあります。

〔問14〕

生涯学習を進めるには、それに対応した人材の育成や研修制度が必要とされていますが、どのような考え方で進めるのが適当と思われますか。次の項目から1つ選んでください。

1. 生涯学習や活動を支援するボランティアの育成が大切
2. 生涯学習や活動を中心になって指導するリーダーの育成が大切
3. 人材の育成も大切だが、育成した人材が活動できる仕組みが大切
4. 研修などを受けたとき、資格を取得できることが大切
5. 現在活動している地域のリーダーが研修を受けることが大切
6. 必要ない
7. わからない

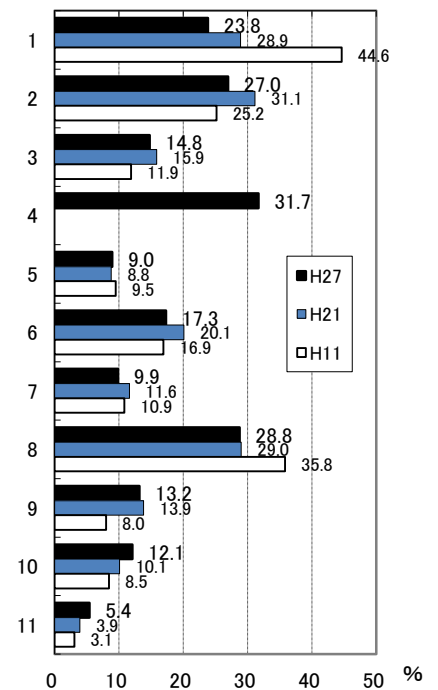


○ 前回、前々回同様、「人材の育成も大切だが、育成した人材が活動できる仕組みが大切」の割合が一番高くなっています。

〔問15〕

あなたは、将来の豊橋市の生涯学習社会のイメージとして、どのようなまちを想像しますか。次の項目から重要な順に2つ選んでください。

1. 誰でも気軽に催しなどに参加できるバリアフリー化された施設のあるまち
2. コンサート・展覧会・スポーツ大会等魅力的な催しが頻繁に開催されるまち
3. 市民一人ひとりが各分野で積極的に活動するまち
4. 市民の誰もが、そこへ行けばいろいろな活動ができる魅力的な施設のあるまち
5. 各地域の特色を生かした拠点となる魅力ある施設を持ったまち
6. 趣味や教養などの自主グループが多くあり、活発に活動しているまち
7. 市民一人ひとりが庭やバルコニーで花や木を育て、花と緑にあふれるまち
8. 市民の声が生かされたまちづくりができるまち
9. 昔の町並みが保存または再現され、心豊かに過ごせるまち
10. 地域の歴史・文化が伝承されるまち
11. わからない



○ 今回新たに設けた項目「市民の誰もが、そこへ行けばいろいろな活動ができる魅力的な施設のあるまち」の割合が一番高くなりました。

○ 「各地域の特色を生かした拠点となる魅力ある施設を持ったまち」「地域の歴史・文化が伝承されるまち」の割合が増加しましたが、それ以外は減少しており、全体的に多様化している傾向にあります。

○市民館利用者アンケート調査

1. 調査の概要

地区市民館管理運営状況のモニタリング調査の一環として、豊橋市と指定管理者が協働し、利用者向けのアンケート調査を実施した。

2. 調査時期

平成26年11月中旬～同12月中旬に実施した。

3. 調査方法

各地区市民館利用者へアンケート用紙を配付し実施した。

4. 配布数（※22年度との比較）

実施年度	配付数	回収数	回収率
平成22年度	686	678	98.8%
平成26年度	842	842	100%

5. アンケート結果（※22年度との比較）

1. 現在の市民館に対する評価を教えてください

1-1. 市民館の使用申請手続きについて

選択項目	平成22年度	平成26年度
特に不便ではない	94%	94%
不便である	6%	3%
無回答	—	3%

1-2. 職員の対応について

選択項目	平成22年度	平成26年度
大変満足している	65%	66%
ほぼ満足している	34%	33%
やや不満がある	1%	1%
大変不満がある	0%	0%

1-3. 使用料について

選択項目	平成22年度	平成26年度
安い	29%	20%
適当である	68%	62%
高い	3%	9%
無回答	—	9%

1-4. 建物や備品など施設全般について

選択項目	平成22年度	平成26年度
大変満足している	28%	24%
ほぼ満足している	59%	66%
やや不満がある	11%	7%
大変不満がある	2%	0%
無回答	—	2%

1-5. 市民館の情報について

選択項目	平成22年度	平成26年度
情報が伝わってきており、何をやっているかわかる	86%	84%
情報が伝わってきておらず、何をやっているかわかりづらい	14%	10%
無回答	—	6%

1-6. 災害時の避難所

選択項目	平成22年度	平成26年度
災害時に市民館が避難所となることを知っている	—	77%
災害時に市民館が避難所となることを知らない	—	6%
自宅近くの避難所を知っている	—	13%
自宅近くの避難所を知らない	—	2%
無回答	—	2%

1-7. 市民館の開館日などについて（複数回答可）

選択項目	平成22年度	平成26年度
祝日に開館していることを知っている	—	63%
祝日に開館していることを知らなかった	—	12%
祝日に利用したことがある	—	18%
年末年始も使用したい	—	6%
無回答	—	1%

2. 利用されている「あなた」について教えてください

2-1. あなたの年齢を教えてください。

選択項目	平成22年度	平成26年度
10代	3%	7%
20代	2%	2%
30代	8%	7%
40代	8%	9%
50代	16%	13%
60代	36%	30%
70代	23%	26%
80代以上	4%	6%
無回答	—	1%

2-2. あなたの性別を教えてください。

選択項目	平成22年度	平成26年度
男性	24%	27%
女性	76%	69%
無回答	—	3%

2-3. あなたはどのような時間帯にもっとも市民館を利用しますか。

選択項目	平成22年度	平成26年度
平日午前	32%	31%
平日午後	33%	28%
平日夜間	10%	12%
土日午前	10%	9%
土日午後	11%	11%
土日夜間	4%	4%
祝日午前	—	2%
祝日午後	—	2%
祝日夜間	—	0%
無回答	—	1%

2-4. あなたは主にどのようなことで市民館を利用しますか（複数回答可）

選択項目	平成22年度	平成26年度
市や市民館主催講座（トラム・幼児ふれあい・高齢者セミナー等）の受講	8%	7%
自主サークル・グループ活動	36%	31%
「市民館まつり」などのイベント	18%	17%
図書室の利用（図書の貸し出し含む）	11%	13%
同業者の集まり・会合	1%	1%
自治会、校区社教、老人会、PTAなどの活動	5%	5%
予防接種や健康診断・検診	5%	5%
選挙の投票	4%	4%
税金・年金の相談	0%	1%
ヘルストロン	10%	11%
特に用事はなく、たまたま通りすぎりによる程度	0%	1%
その他	1%	2%
無回答	—	1%

2-4-1. 自主サークル・グループ活動グループの人数について

選択項目	平成22年度	平成26年度
多くの参加者がいる	25%	28%
グループ活動を保っていける程度はいる	68%	55%
少なく、グループ活動を保つのが困難になっている	7%	7%
無回答	—	10%

2-4-2. 自主サークル・グループ活動グループの活動場所について

選択項目	平成22年度	平成26年度
地区市民館・校区市民館のみで活動している	—	64%
地区市民館・校区市民館以外でも活動している	—	20%
無回答	—	17%

2-5. 市民館はあなたの家からどのくらいの距離にありますか

選択項目	平成22年度	平成26年度
歩いて5分以内の距離	12%	10%
歩いて5分～10分くらいの距離	23%	21%
歩いて10分～30分くらいの距離	35%	33%
歩いて30分以上の距離	31%	28%
無回答	—	8%

2-6. 市民館には主にどのようにして行きますか

選択項目	平成22年度	平成26年度
徒歩	21%	22%
自転車	21%	19%
オートバイ	2%	3%
自動車（同乗を含む）	55%	49%
タクシー	0%	0%
バス	0%	0%
電車	0%	0%
シルバーカー・車椅子	0%	0%
無回答	—	6%

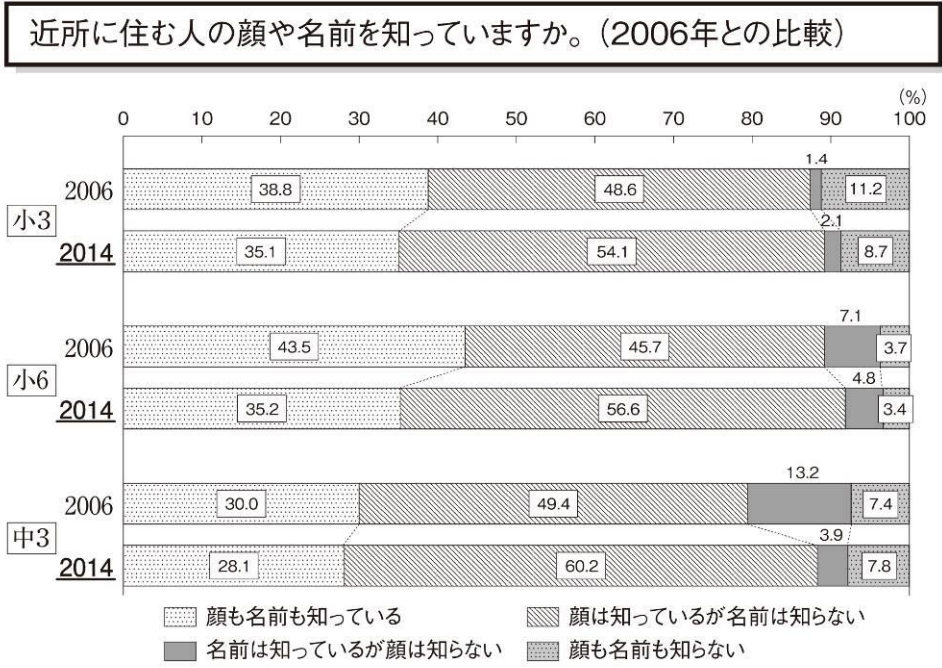
2-7. 本アンケートを受け取った地区市民館以外に、利用する市民館等を教えてください（複数回答可）

選択項目	平成22年度	平成26年度
住んでいる中学校区の地区市民館しか利用しない	28%	23%
住んでいる中学校区以外の地区市民館も利用する	24%	20%
住んでいる校区の校区市民館も利用する	28%	21%
住んでいる校区以外の校区市民館も利用する	20%	14%
アイプラザ豊橋（旧勤労福祉会館）も利用する	—	7%
無回答	—	15%

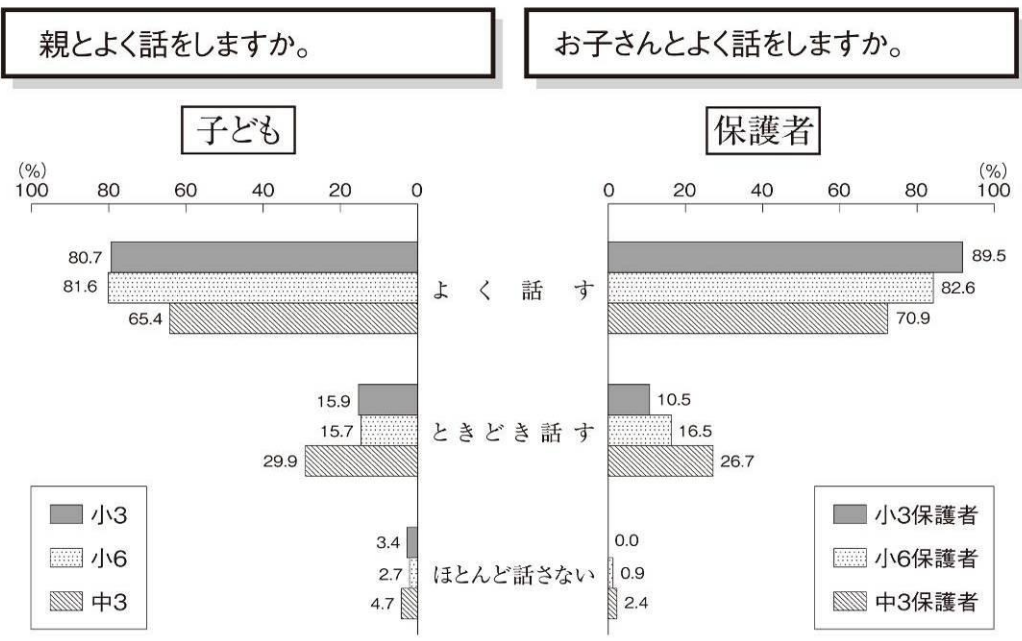
○参考データ

(出典：豊橋市立小中学校教員組合「2014 年度教育白書 豊橋の教育をすすめるために」)

■地域とのつながりについて



■親と子のつながりについて



年	豊橋市の動き	愛知県の動き	国・世界の動き
昭和 40年			ユネスコ 第3回成人教育推進国際委員会 ・生涯教育の概念提唱
46年			社会教育審議会答申 「急激な社会構造の変化に対応 する社会教育のあり方につい て」
56年			中央教育審議会答申 「生涯教育について」
57年		愛知県生涯教育推進懇話会報告 「あいちの生涯教育のあり方」	
平成 2年		生涯学習推進会議専門部会研究 報告書 「あいちの生涯学習都市（まち） プラン」	「生涯学習の振興のための施策 の推進体制等の整備に関する法 律」（生涯学習振興法）
4年			生涯学習審議会答申 「今後の社会の動向に対応した 生涯学習の振興方策について」
5年	「豊橋市生涯学習推進計画」 (1993～2000)		
8年		「愛知県生涯学習推進構想」	
12年	「豊橋市生涯学習推進計画」 (2001～2010)		
18年		「愛知県生涯学習推進構想」 一部改定	「教育基本法」改正
19年		「あいちの教育に関するアクシ ョンプラン」	
20年			中央教育審議会答申「新しい時 代を切り拓く生涯学習の振興 方策について」 「教育振興基本計画」
23年	「豊橋市生涯学習推進計画」 (2011～2020)		
25年		「愛知県生涯学習推進計画」	「第2期教育振興基本計画」

主要用語解説

○生涯学習社会

生涯学習を基礎にして、豊かな人間関係や活力ある社会を築いていくためのモデルとなる社会。平成4年の生涯学習審議会答申では、「人々が、生涯のいつでも、自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が社会において適切に評価されるような生涯学習社会を築いていくことを目指すべきである」と述べている。また、臨時教育審議会や中央教育審議会の答申では、「生涯学習社会」を構築する必要性として、学歴社会の弊害の是正や社会の成熟化に伴う学習需要の増大への対応、社会・経済の変化に対応するための学習を挙げている。

○ICT

Information and Communication Technology の略で、情報通信技術と訳されている。情報や通信に関連する科学技術の総称。

○市民大学トラム

従来個別に企画、実施されていた学習事業を見直し、連携・調整によってより総合的、体系的な学習事業を市民に提供するため平成8年5月に開設した。トラムとは、市民大学の愛称で、「トヨハシ ライフロング ムーブメント（豊橋生涯活動）」の頭文字のカタカナで構成。トラムは、英語で路面電車の意味があり、路面電車は本市を代表するものである。

○生涯学習情報紙「glad！（グラッド）」

市、市内の大学、近隣市町、関係団体の講座、イベント情報を紹介する生涯学習情報紙。平成6年4月に創刊し、現在も年2回（4月、9月）発行、市内の公共施設を中心に配布している。

○ユニバーサルデザイン

年齢、性別、身体的特徴、国籍などの違いに関係なく、初めからすべての人にとって利用しやすいまちづくり、ものづくり、環境づくりを行っていく考え方。

○社会教育関係団体

社会教育法第10条による法律上の概念で、「法人であると否とを問わず、公の支配に属しない団体で社会教育に関する事業を行うことを主たる目的とするもの」をさし、団体の範囲の明確な規定はない。本市ではPTA、子ども会、校区社会教育委員会、市民愛市憲章推進協議会などの団体の活動を支援している。

○シティプロモーション

本市の魅力を地域内外に発信していき、より多くの人々に対し、本市に関心をもってもらい、選んでもらう活動。

○ライフステージ

人間の一生における乳幼児期・少年期・青年期・壮年期・高齢期などのそれぞれの段階。

○生きる力

平成8年の中央教育審議会答申「21世紀を展望した我が国の教育のあり方について（第1次答申）」で提言された。自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力、また、自らを律し、他人と協調し他人を思いやる心や感動する心など豊かな人間性とたくましく生きるための健康や体力を備えるものとされている。

○地域教育ボランティア制度

学校と地域のパイプ役となるコーディネーターが、地域住民が教育活動にボランティアとしてかかわっていくよう調整したり、地域の活動に子どもが参加するよう促したりして、地域の教育力を活かして子どもの教育環境を充実させていく制度。

○社会教育指導員

昭和47年度より、地区市民館の社会教育指導者層の充実を図り、社会教育の振興に資するために設置された非常勤職員。教育に関し豊かな経験と見識を有し、社会教育に関する指導技術を有する者のうちから、教育委員会が委嘱し、地区市民館館長として、各種社会教育講座の開設、地域住民の学習相談、社会教育関係団体の育成指導等を行っている。

「豊橋市生涯学習推進計画 改訂版」策定経過

年 月 日	事 項
平成 26 年 7 月 16 日	平成 26 年度 第 1 回豊橋市社会教育審議会 ○「豊橋市生涯学習推進計画」について ・「豊橋市生涯学習推進計画」の説明
平成 26 年 10 月 30 日	平成 26 年度 第 2 回豊橋市社会教育審議会 ○「豊橋市生涯学習推進計画」「とよはし子ども・若者育成プラン」について ・「豊橋市生涯学習推進計画」の説明 ・「とよはし子ども・若者育成プラン」の説明、前期の取組み目標に対する実績の審議
平成 26 年 12 月 17 日	平成 26 年度 第 3 回豊橋市社会教育審議会 ○「豊橋市生涯学習推進計画」前期の実績について ・「豊橋市生涯学習推進計画」前期の取組み目標に対する実績の審議 ・国の「第 2 期教育振興基本計画」、「愛知県生涯学習推進計画」の説明
平成 27 年 2 月 25 日	平成 26 年度 第 4 回豊橋市社会教育審議会 ○「豊橋市生涯学習推進計画」中間見直しの方向性について ・「豊橋市生涯学習推進計画」中間見直しの方向性について審議
平成 27 年 5 月 27 日	平成 27 年度 第 1 回豊橋市社会教育審議会 ○「豊橋市生涯学習推進計画」の市民アンケートについて ・市民アンケートの調査内容について審議
平成 27 年 8 月 27 日	教育委員会 定例会 ○「豊橋市生涯学習推進計画 改訂版」の骨子について
平成 27 年 9 月 11 日	平成 27 年度 第 2 回豊橋市社会教育審議会 ○「豊橋市生涯学習推進計画 改訂版」の骨子について ・「豊橋市生涯学習推進計画 改訂版」の骨子について審議 ・市民アンケートの調査結果について説明
平成 27 年 11 月 24 日	平成 27 年度 第 3 回豊橋市社会教育審議会 ○「豊橋市生涯学習推進計画 改訂版」の素案について ・「豊橋市生涯学習推進計画 改訂版」の素案について審議
平成 27 年 11 月 26 日	教育委員会 定例会 ○「豊橋市生涯学習推進計画 改訂版」の素案について

年 月 日	事 項
平成 27 年 12 月 25 日	市議会福祉教育委員会 ○「豊橋市生涯学習推進計画 改訂版」の素案について
平成 28 年 1 月 15 日 ～2 月 14 日	パブリックコメント
平成 28 年 2 月 23 日	平成 27 年度 第 4 回豊橋市社会教育審議会 ○「豊橋市生涯学習推進計画 改訂版」の最終案について ・「豊橋市生涯学習推進計画 改訂版」の最終案について説明 ・パブリックコメントの結果報告
平成 28 年 2 月 24 日	教育委員会 定例会 ○「豊橋市生涯学習推進計画 改訂版」の最終案について

豊橋市社会教育委員名簿(H26.7.1~H28.6.30)

氏名	役職名
小久保 恵司(*)	豊橋市立小中学校長会副会長
大河 一夫	豊橋市校区社会教育委員会連絡協議会会長
荒木 輝彦	豊橋市小中学校PTA連絡協議会顧問
福井 靖(*)	豊橋市子ども会連絡協議会会長
安田 好文	(公財) 豊橋市体育協会理事
地宗 一郎	豊橋市図書館協議会委員
宮田 正人	豊橋市美術博物館協議会委員
大谷 順子	豊橋市自然史博物館協議会委員
加島 大輔	愛知大学准教授
杉原 興一	学識経験者

※上記(*)の2名は、平成27年4月30日付解嘱。

平成27年5月1日から以下の2名を委嘱。

井上 茂穂	豊橋市立小中学校長会会計監査
林 順美	豊橋市少年愛護センター補導委員会会長

平和・交流・共生の都市宣言

私たちのまち豊橋市は、市民自治の精神に立ち、人や地域、世界の国々とのつながりを大切に、“すべての人とともに生きる”、気概と誇りをもったまちづくりを進めています。

市制 100 周年を機に、私たちは、先人の英知と情熱の歴史を受け継ぎ、核の脅威のない真の恒久平和と世界の持続的な発展に貢献するため、広い分野にわたる交流と国際協力の取組みに努めます。

また、多様な文化や生活・習慣への理解を深め、自らの役割と責任を自覚するなかで、互いに信頼し尊重しあう心を持ち、人が輝き安心して生活できる地域づくりに取り組みます。

心豊かで笑顔あふれる豊橋を次の世代に引き継ぐため、私たち豊橋市民は、一人ひとりが、未来への夢と高い志を持ち、“世界に開かれ、世界に友人をもつ豊橋”、“平和を希求する豊橋”をめざすことを決意し、ここに「平和・交流・共生の都市」を宣言します。

平成 18 年 12 月 18 日

愛知県豊橋市

豊橋市生涯学習推進計画 改訂版

平成 28 年 3 月

発行：豊橋市教育委員会

生涯学習課

〒440-8501

愛知県豊橋市今橋町 1

TEL (0532) 51 - 2849

